

# 福崎町学校施設等長寿命化計画

2019年（平成31年）3月

福 崎 町

# 目次

第1章	計画の背景・目的等	1
1-1	背景	1
1-2	目的	1
1-3	計画期間	5
1-4	対象施設	5
第2章	学校施設の目指すべき方向性	6
第3章	対象施設等の実態整理	8
3-1	学校施設の運営状況・活用状況等の実態	8
3-2	対象施設等の老朽化状況の実態整理	15
3-3	教育現場から提示された課題や要望	28
3-4	学校施設の課題	32
第4章	学校施設整備の基本的な方針等	33
4-1	学校施設の規模・配置計画等の方針	33
4-2	改修等の基本的な方針	36
第5章	対象施設等の整備水準の策定	39
5-1	改修等の整備水準	39
5-2	維持管理の項目・手法等の策定	41
第6章	長寿命化の実施計画の策定	43
6-1	改修等の優先順位付けと実施計画	43
6-2	長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果	46
第7章	長寿命化計画の継続的運用方針	51
7-1	情報基盤の整備と活用	51
7-2	推進体制等の整備	51
7-3	フォローアップ	51
参考資料		52
1	計画策定に係る経緯	53
2	計画策定に係る体制	54
3	参考資料（平成27年4月文部科学省ガイドラインより）	56

## 第1章 計画の背景・目的等

### 1-1 背景

福崎町（以下、「本町」という。）の教育関連施設としては、小学校4校、中学校2校、認定こども園4園及び給食共同調理センター1施設を所有しています。

1981年（昭和56年）以前に建築された旧耐震基準の校舎や体育館などについては、耐震診断と必要に応じて耐震補強工事を行い、2010年（平成22年）に耐震化を完了させていますが、昭和40・50年代に建設された学校施設では、老朽化が進行しており、順次、大規模改修、または、改築（建て替え）が必要となっています。

学校施設は、未来を担う子供たちが集い、生き生きと学び、生活する場であることはもちろん、地域住民にとっての生涯にわたる学習、文化、スポーツなどの活動や地域コミュニティの場であり、災害時には防災拠点や避難所としての役割も果たす重要な施設です。そのため、学校施設の老朽化対策は、先送りできない重要な課題ですが、これらの更新を進める上で将来的に多くの財政負担が必要となります。

財政面においては人口減少・少子高齢化の進行に伴い社会保障関係経費が増加するなど厳しさを増すことが見込まれ、学校施設等の維持管理・更新にあたっては、コストの縮減、平準化を図りながら、計画的に進めることが求められています。

### 1-2 目的

国土交通省は、2013年（平成25年）11月にインフラ長寿命化基本計画を策定し、国民の安全・安心を確保し、中長期的な維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図る方向性を打ち出しました。これを踏まえ、文部科学省は、所管又は管理する施設の維持管理等を着実に推進するための中期的な取組の方向性を明らかにするため、文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）を策定しました。

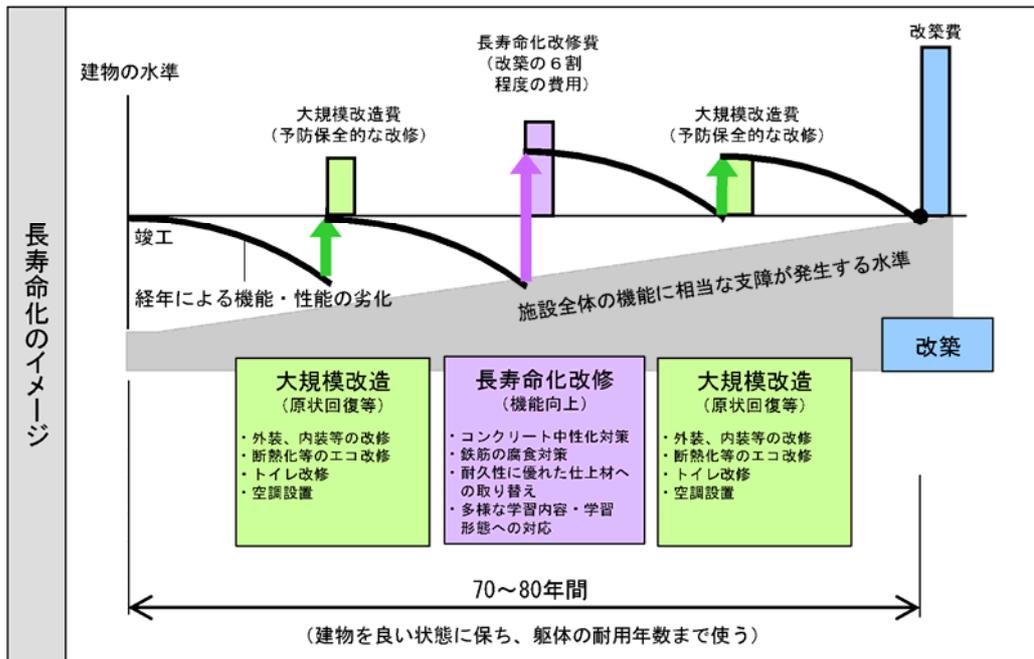
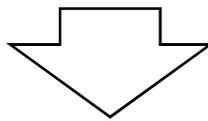
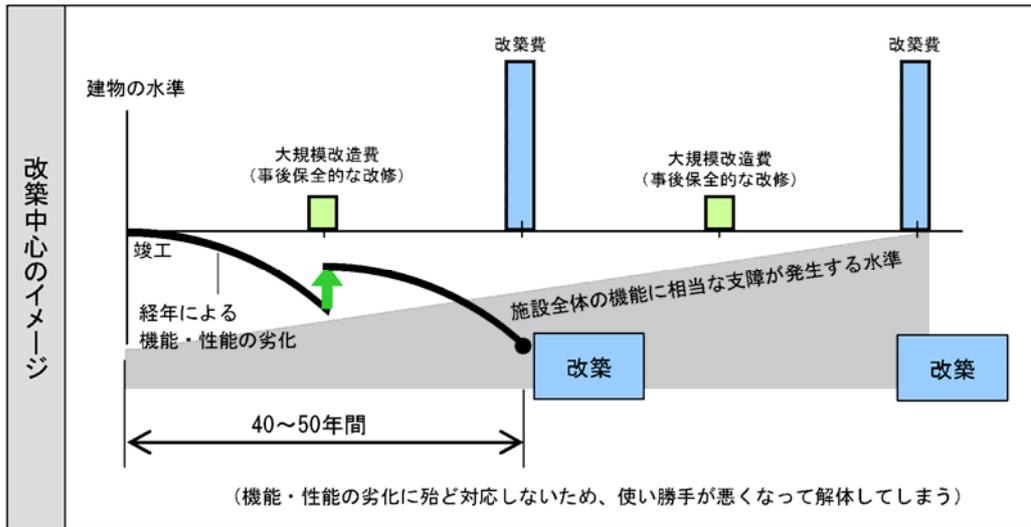
本町においては、公共施設全般の効率的な維持管理を進めるための基本方針を定めた福崎町公共施設等総合管理計画を2016年（平成28年）度に策定し、学校施設について以下の基本的な考え方を示しました。

- ・学校は、義務教育の拠点としての機能を果たすことを目的としています。
- ・安全・安心な学習の場を提供するために各教育施設の老朽化対策として長寿命化が求められており、順次改修を行う必要があります。
- ・そのため、各施設の老朽化度合いを考慮し、既存校舎は修繕にて対応しながら、早急に長寿命化計画策定の調査・検討を進めます。

福崎町学校施設等長寿命化計画（以下「本計画」という。）は、2017年（平成29年）3月に文部科学省により策定された「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」に基づいて作成します。本計画には、学校施設等の状況や将来的な需要見通しを踏まえ、各学校のあり方を考慮した上で、効率的・効果的な学校別・施設別の事業方法を選定するとともに、長寿命化のための事業

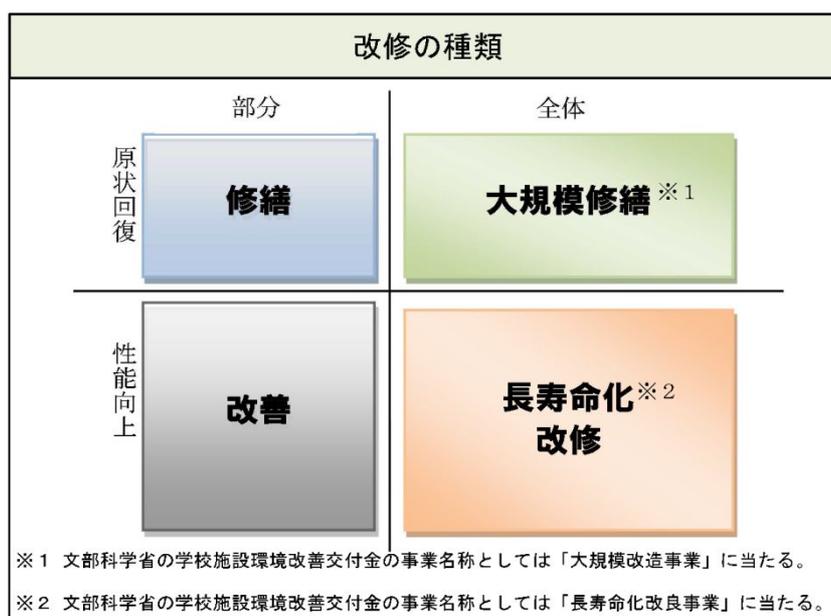
計画を定めるもので、予防保全的な維持管理、計画的な修繕や改善等を通じてライフサイクルコスト（LCC）の縮減を図り、併せて中長期的な視点から財政負担を軽減・平準化を図ることを目的として策定するものです。

改築中心から長寿命化への転換のイメージ



出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る手引き（文部科学省）

改修の種類イメージ図



出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る手引き（文部科学省）

#### ◇修繕

修繕とは、施設の一部に生じている損耗や機能低下に対する機能（原状）回復のための工事です。

#### ◇改善

改善とは、施設の一部に生じている機能低下、または、不足している機能に対する性能向上のための工事です。

#### ◇大規模修繕（＝大規模改造）

大規模修繕とは、経年劣化による損耗や機能低下に対する機能（原状）回復のための工事です。

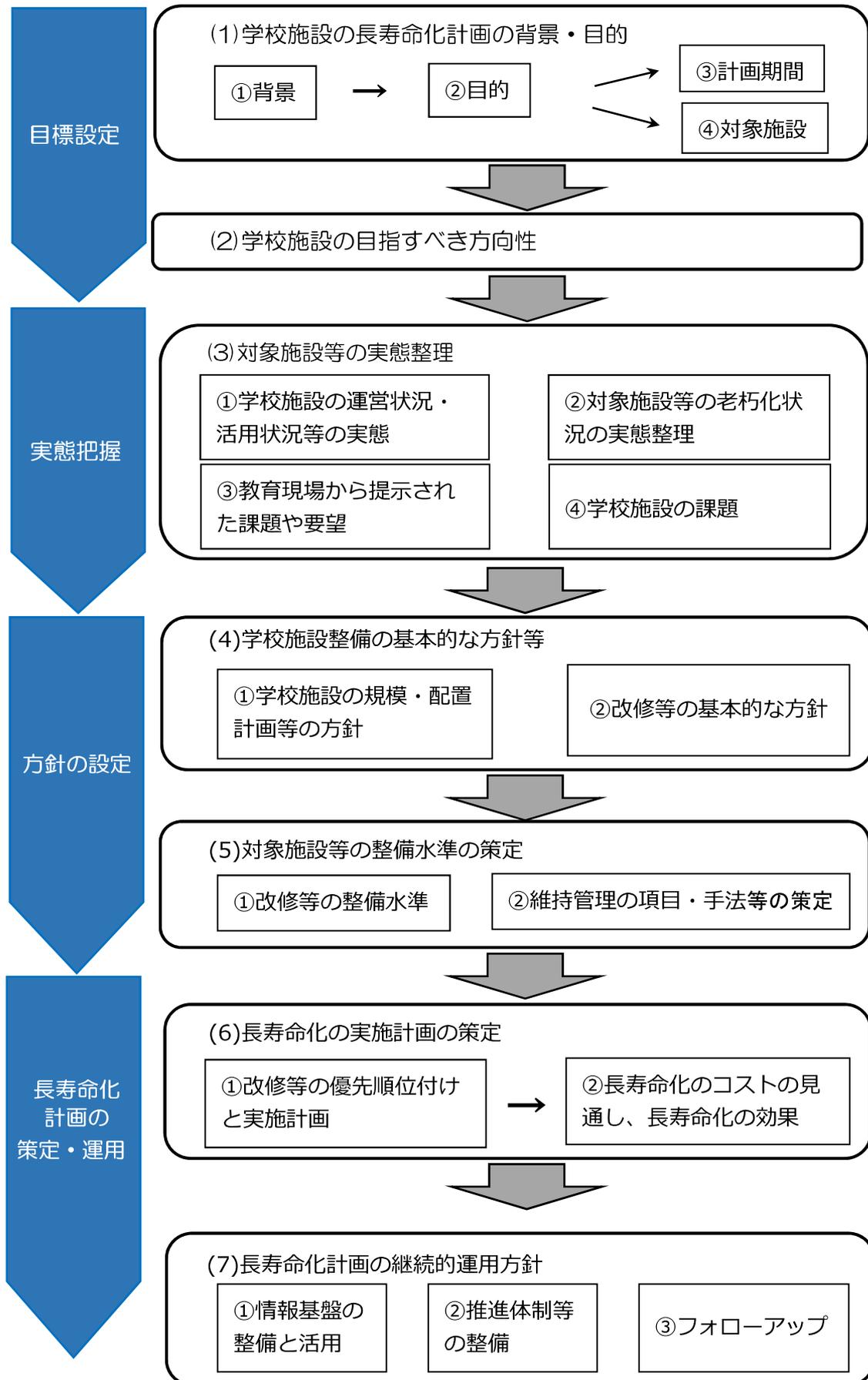
外装・内装等の改修、屋上防水改修、トイレなどの設備機器の改修、断熱化等のエコ改修、空調設置などを行います。

#### ◇長寿命化改修

長寿命化改修とは、経年劣化による損耗や機能低下に対する機能（原状）回復のための工事とともに、耐用性、快適性、省エネ性を確保するための機能向上工事です。

大規模修繕に加え、コンクリートの中性化対策、鉄筋の腐食対策、耐久性に優れた仕上げ材への取り替え、多様な学習内容並びに学習形態への対応、バリアフリー改修、省エネルギー機器への更新などを行います。

## 【学校施設の長寿命化計画の構成】



### 1-3 計画期間

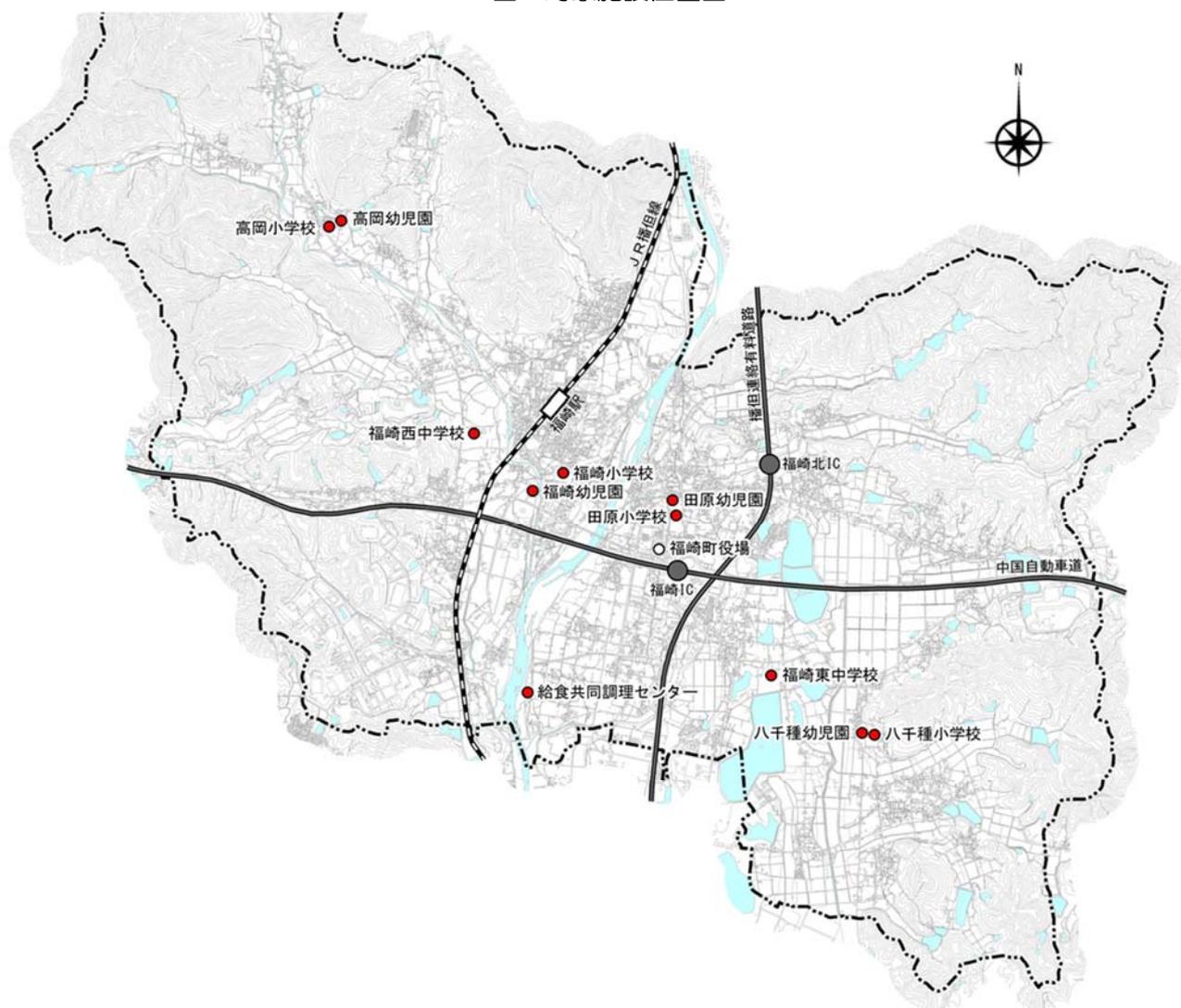
本計画の期間は、2019年（平成31年）度から2048年までの30年間の計画とし、概ね5年毎に見直しを行うものとします。なお、児童生徒数の変化、社会経済情勢、国の補助制度の動向により早急な対応が必要な場合には、随時見直すものとします。

### 1-4 対象施設

本計画における対象施設は、以下に示す全ての施設とします。

中学校（校舎、体育館、プール、グラウンド及び学校付帯施設）	2校
小学校（校舎、体育館、プール、グラウンド及び学校付帯施設）	4校
認定こども園	4園
給食共同調理センター	1施設

図 対象施設位置図



## 第2章 学校施設の目指すべき方向性

学校施設の目指すべき方向性は、まずは、福崎町公共施設等総合管理計画に記載されている「安全・安心な学習の場を提供」を確保し、その上でグローバル化に伴う新しい教育への対応を実現するため、学校施設の実態や課題を踏まえ、以下のとおりとします。

### 目指すべき方向性

#### 1. 安全・安心な学校施設

- ①学校施設は、児童・生徒の学習と生活の場であるとともに、地域コミュニティや防災拠点、避難所としての役割を果たす施設でもあるため、安全かつ安心な施設環境を確保します。
- ②児童・生徒が安心して有意義な学校生活ができるよう、防犯対策や安全ガラスの採用などによる犯罪や事故を未然に防ぎます。
- ③構造部材だけでなく非構造部材の耐震化を進め、照明器具の落下や什器類の転倒を防止するための措置を講じます。
- ④周辺公共施設と連携調整しながら、避難所として必要な機能を整備します。
- ⑤障害の有無に関わらず安心して学校施設を利用できるようエレベーター、多目的トイレなど、ユニバーサルデザインやバリアフリー化を図ります。

#### 2. 教育環境の質的向上（快適性・環境への適応性・学習活動への適応性）

- ①近年の教育内容・方法の多様化や児童・生徒の生活様式の変化等も踏まえ、トイレの洋式化、エアコンの整備など快適性を高めることによって、児童や生徒が学習に集中できる環境を整備します。
- ②高断熱材の採用、LED照明、人感センサー照明などの省エネルギー化、並びに、太陽光発電設備の導入、自然の光や風などの自然エネルギーの有効活用など、環境に配慮した施設整備に積極的に取り組み、環境教育に生かします。
- ③施設の木質化を図り、鉄等に比べて、材料製造時に要するエネルギー量が少なく、森林の保全、地域の産業や地球環境問題などについて学習する教材として活用します。
- ④情報化の進展と普及に伴い、ICT環境の一体的な整備を効率的に進めるとともに児童・生徒一人ひとりの教育ニーズに応じて、少人数学習や特別支援教育に対応した施設を整備します。
- ⑤時代に即した多機能な教育環境実現のために、転用可能な多目的スペースを確保することにより、今後も変化し続ける教育・学習形態に柔軟に対応できる施設とします。
- ⑥教職員の業務量が増加し多様化し続けている実態を鑑み、教職員等の事務負担や学校施設等の維持管理にかかる負担を軽減できる施設にします。

### 3. 地域の拠点化

- ①生涯学習の場として地域連携施設や放課後児童クラブ室等を設置するなど地域コミュニティを活性化することのできる施設とします。
- ②将来の児童・生徒数に即しながら、社会情勢の変化に伴い、空き教室などをセミナールームや福祉施設などに柔軟な対応ができるように施設の維持・活用を図ります。

### 4. 計画的・効率的な施設改修

- ①学校施設が良好な状態を維持できるよう計画的な改修を実施して長寿命化を図り、複合利用等も含めた施設の有効活用を図ります。なお、これらのことにより公共施設全体のライフサイクルコストの縮減に寄与することが期待できます。

#### 【 福崎町公共施設等総合管理計画における学校施設の管理に係る基本的な考え方 】

学校は、義務教育の拠点としての機能を果たすことを目的としています。安全・安心な学習の場を提供するために各教育施設の老朽化対策として長寿命化が求められており、順次改修を行う必要があります。そのため、各施設の老朽化度合いを考慮し、既存校舎は修繕にて対応しながら、早急に長寿命化計画策定の調査・検討を進めます。

(福崎町公共施設等総合管理計画 第5 施設類型ごとの管理に関する基本的な方針から抜粋)

### 第3章 対象施設等の実態整理

#### 3-1 学校施設の運営状況、活用状況等の実態

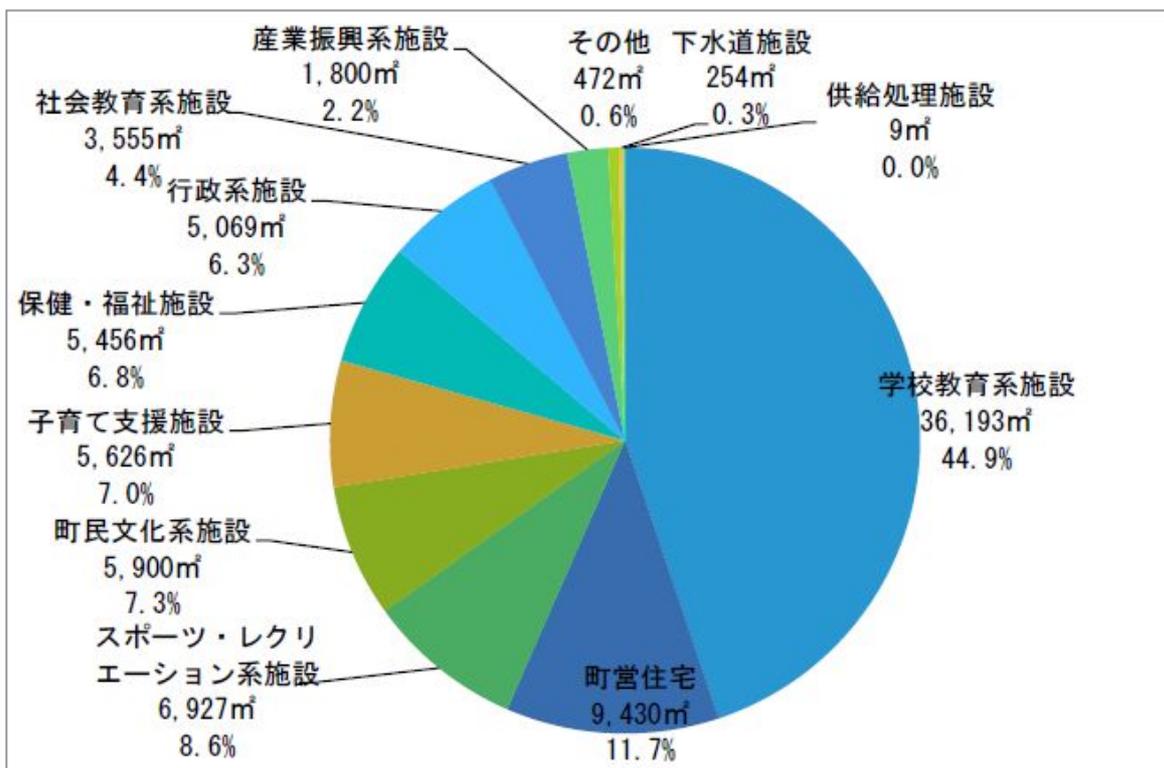
本町では、校区によって児童・生徒数の増減が予想される状況を踏まえ、学校施設を取り巻く状況として、「人口の推移」を中心にした整理を行います。

##### 1. 類型別公共施設の保有状況

福崎町公共施設等総合管理計画（以下、管理計画という）において、本町が管理計画の対象とする施設数は65施設、面積（総延べ床面積）80,691㎡、町民一人あたりでは4.1㎡となっています。

延床面積では、学校教育施設が最も多く、管理計画の対象とする施設の44.9%を占め、最も多くなっています。

図 類型別公共施設の保有面積と割合



※出典：福崎町公共施設等総合管理計画より

## 2. 人口の推移と将来予測

国勢調査によると、本町の人口は、2005年（平成17年）に20,669人をピークにやや減少に転じていますが、これまでの国勢調査からの将来推計では、周辺の他市町に比較して減少傾向はゆるやかであり、14歳以下の年少人口についても同様の傾向が予測されます。

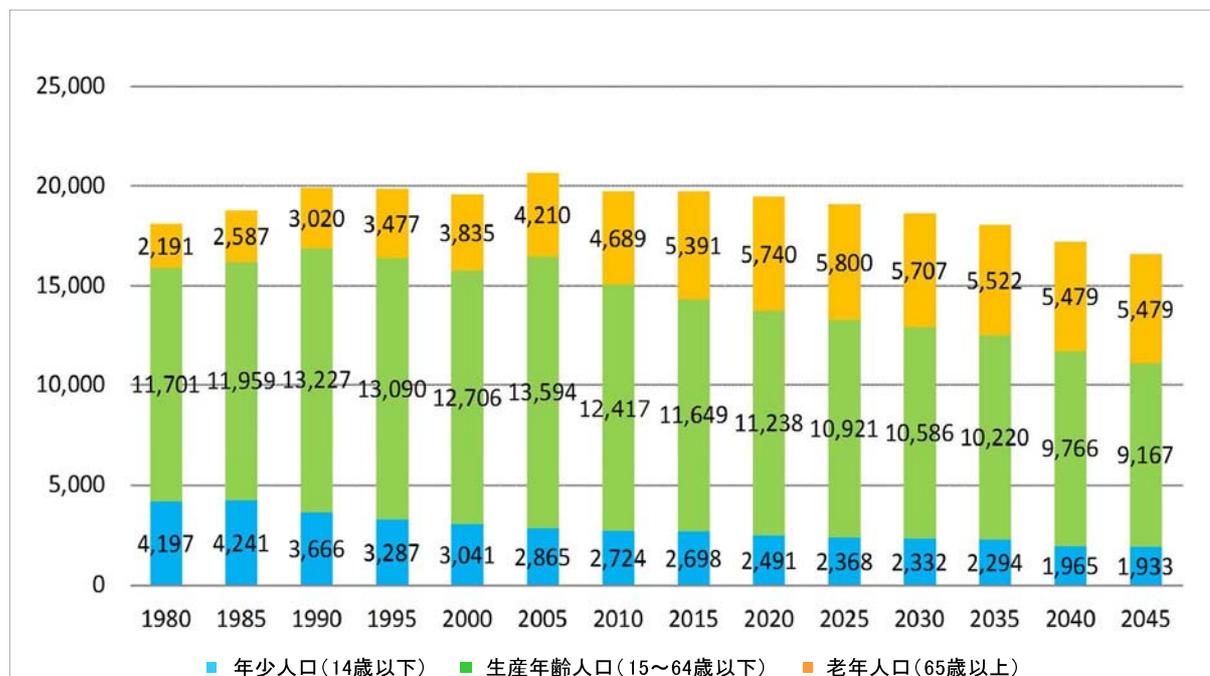
表 福崎町の人口の推移と将来推計

年	1980 (S55)	1985 (S60)	1990 (H02)	1995 (H07)	2000 (H12)	2005 (H17)	2010 (H22)
年少人口（14歳以下）	4,197	4,241	3,666	3,287	3,041	2,865	2,724
生産年齢人口（15～64歳以下）	11,701	11,959	13,227	13,090	12,706	13,594	12,417
老年人口（65歳以上）	2,191	2,587	3,020	3,477	3,835	4,210	4,689
総人口	18,089	18,787	19,913	19,854	19,582	20,669	19,830

年	2015 (H27)	2020	2025	2030	2035	2040	2045
年少人口（14歳以下）	2,698	2,491	2,368	2,332	2,294	1,965	1,933
生産年齢人口（15～64歳以下）	11,649	11,238	10,921	10,586	10,220	9,766	9,167
老年人口（65歳以上）	5,391	5,740	5,800	5,707	5,522	5,479	5,479
総人口	19,738	19,469	19,089	18,625	18,036	17,210	16,579

出典：国勢調査（2020年以降は国勢調査をベースに推計）

図 福崎町の年齢3区分別人口の推移と将来推計



### 3. 小中学校の児童・生徒数と学級数の推移

#### (i) 小学校の児童数と学級数の推移

- ①2003年（平成15年）から2017年（平成29年）までの14年間で児童数は11%減少しています。
- ②普通学級は44学級から43学級に1学級減少しています。
- ③特別支援を必要とする児童数が5.6倍に伸びており、学級数も2.8倍の14学級となっています。

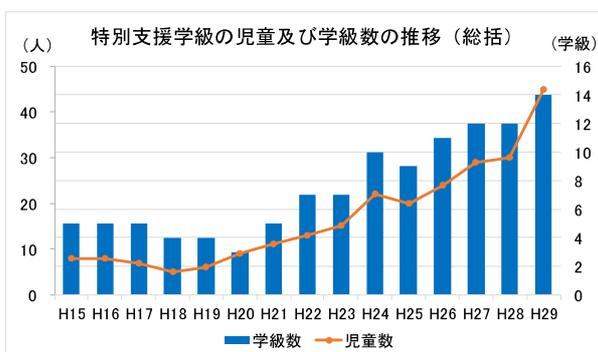
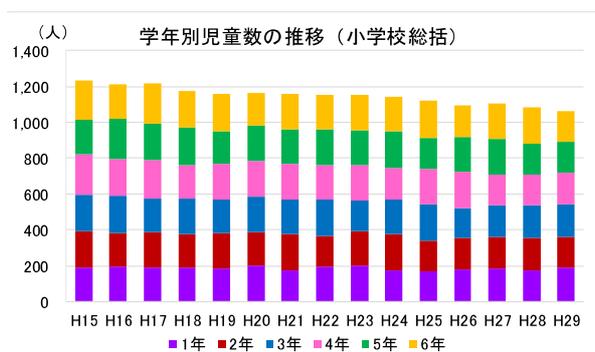
#### ◇小学校総括

●小学校学年別学級数・児童数・職員数の推移（小学校総括）

各年5月1日現在

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		特別支援学級		計		職員数 (人)
	学級数 (学級)	児童数 (人)															
H15	7	187	7	206	7	205	9	223	6	191	8	222	5	8	49	1,242	74
H16	8	196	7	184	7	209	7	207	9	223	6	191	5	8	49	1,218	74
H17	8	192	8	198	7	186	7	212	7	205	9	223	5	7	51	1,223	73
H18	7	190	7	188	8	198	7	186	7	209	7	206	4	5	47	1,182	69
H19	7	186	7	196	7	188	8	196	7	185	7	210	4	6	47	1,167	70
H20	8	199	7	187	7	202	8	194	8	198	7	184	3	9	48	1,173	68
H21	7	176	8	202	7	194	7	197	6	194	8	196	5	11	48	1,170	70
H22	8	193	7	175	7	202	7	195	7	196	6	194	7	13	49	1,168	72
H23	8	200	8	192	7	173	7	200	7	192	7	196	7	15	51	1,168	74
H24	7	173	8	202	7	195	7	174	7	206	7	192	10	22	53	1,164	74
H25	7	169	7	173	8	203	7	195	6	174	7	206	9	20	51	1,140	74
H26	8	181	7	172	7	171	8	201	6	195	6	175	11	24	53	1,119	78
H27	8	182	8	180	7	174	7	172	7	200	6	198	12	29	55	1,135	78
H28	7	175	8	182	8	179	7	171	6	174	7	201	12	30	55	1,112	79
H29	8	187	7	176	8	179	8	177	6	170	6	171	14	45	57	1,105	83

資料：教育委員会



#### (ii) 各小学校の児童数と学級数の推移

- ①全小学校で児童数が減少していますが、八千種小学校が町内で最も児童数を減らしており14年間で31%減少しています。次いで高岡小学校が15%減少しています。
- ②田原小学校と福崎小学校は減少数が少なく、各3%、8%の減少に止まっています。
- ③高岡小学校の普通学級数は、各学年1学級の6学級となっており、八千種小学校の普通学級数も直近6年間は各学年1学級の6学級で推移しています。
- ④田原小学校の普通学級数は、16ないし18学級で推移しており、福崎小学校は12ないし15学級で推移しています。
- ⑤特別支援を必要とする児童数は全小学校で増加しており、同時に特別支援用の学級数も増加しています。

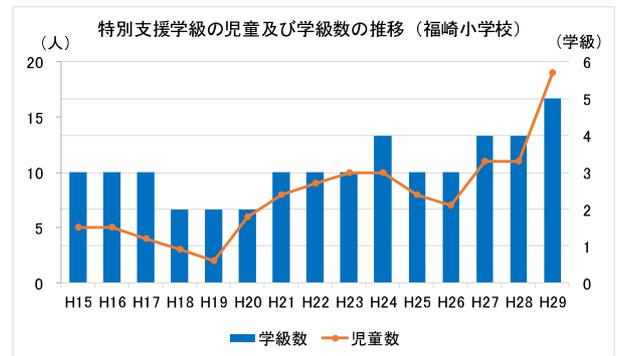
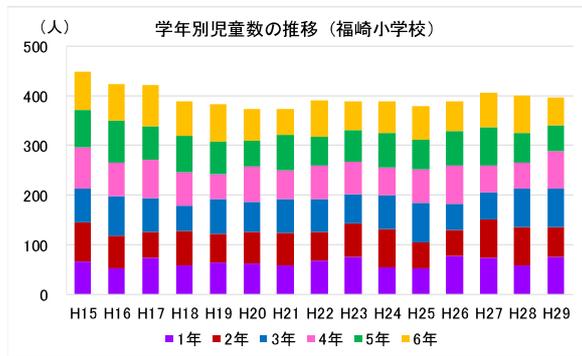
◇福崎小学校

●小学校学年別学級数・児童数・職員数の推移 (福崎小学校)

各年5月1日現在

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		特別支援学級		計		職員数 (人)
	学級数 (学級)	児童数 (人)															
H15	2	67	2	78	2	68	3	83	2	76	2	76	3	5	16	453	25
H16	2	53	2	66	2	78	2	69	3	84	2	74	3	5	16	429	25
H17	3	73	2	53	2	67	2	77	2	69	3	83	3	4	17	426	25
H18	2	58	2	70	2	51	2	66	2	75	2	69	2	3	14	392	22
H19	2	64	2	58	2	69	2	50	2	66	2	76	2	2	14	385	23
H20	2	62	2	64	2	60	3	71	2	52	2	64	2	6	15	379	22
H21	2	58	2	66	2	67	2	59	2	72	2	51	3	8	15	381	22
H22	2	68	2	58	2	66	2	67	2	59	2	72	3	9	15	399	24
H23	3	76	2	68	2	57	2	66	2	64	2	58	3	10	16	399	24
H24	2	54	3	77	2	69	2	56	2	68	2	65	4	10	17	399	24
H25	2	52	2	53	3	78	2	69	2	59	2	68	3	8	16	387	23
H26	3	77	2	53	2	52	3	78	2	69	2	60	3	7	17	396	24
H27	3	74	3	77	2	54	2	55	2	76	2	71	4	11	18	418	25
H28	2	58	3	77	3	78	2	53	2	58	2	77	4	11	18	412	26
H29	3	76	2	60	3	76	3	76	2	52	2	56	5	19	20	415	30

資料：教育委員会



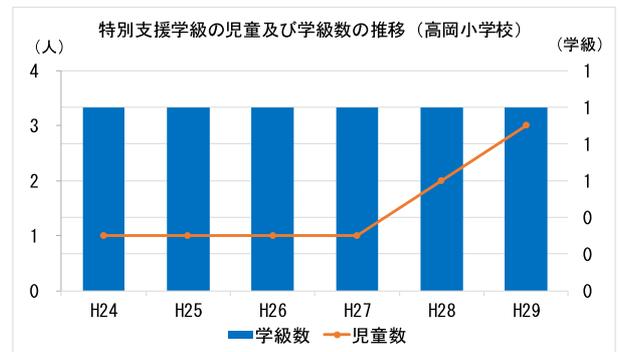
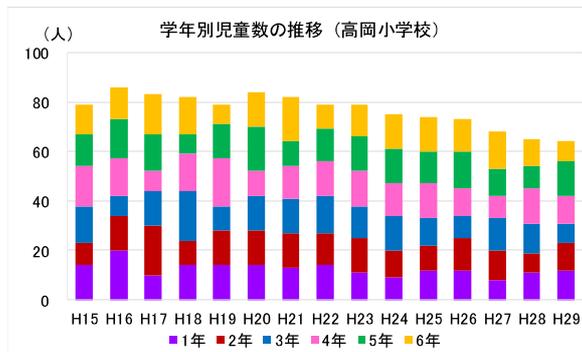
◇高岡小学校

●小学校学年別学級数・児童数・職員数の推移 (高岡小学校)

各年5月1日現在

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		特別支援学級		計		職員数 (人)
	学級数 (学級)	児童数 (人)															
H15	1	14	1	9	1	15	1	16	1	13	1	12			6	79	10
H16	1	20	1	14	1	8	1	15	1	16	1	13			6	86	10
H17	1	10	1	20	1	14	1	8	1	15	1	16			6	83	10
H18	1	14	1	10	1	20	1	15	1	8	1	15			6	82	10
H19	1	14	1	14	1	10	1	19	1	14	1	8			6	79	10
H20	1	14	1	14	1	14	1	10	1	18	1	14			6	84	10
H21	1	13	1	14	1	14	1	13	1	10	1	18			6	82	10
H22	1	14	1	13	1	15	1	14	1	13	1	10			6	79	10
H23	1	11	1	14	1	13	1	14	1	14	1	13			6	79	10
H24	1	9	1	11	1	14	1	13	1	14	1	14	1	1	7	76	11
H25	1	12	1	10	1	11	1	14	1	13	1	14	1	1	7	75	11
H26	1	12	1	13	1	9	1	11	1	15	1	13	1	1	7	74	12
H27	1	8	1	12	1	13	1	9	1	11	1	15	1	1	7	69	11
H28	1	11	1	8	1	12	1	14	1	9	1	11	1	2	7	67	12
H29	1	12	1	11	1	8	1	11	1	14	1	8	1	3	7	67	11

資料：教育委員会



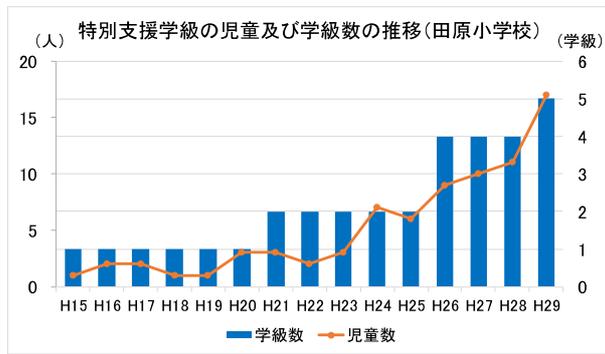
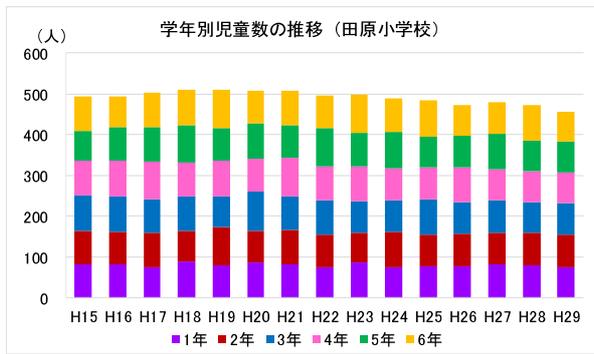
◇田原小学校

●小学校学年別学級数・児童数・職員数の推移 (田原小学校)

各年5月1日現在

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		特別支援学級		計		職員数
	学級数 (学級)	児童数 (人)															
H15	3	81	3	84	3	86	3	84	2	74	3	84	1	1	18	494	26
H16	3	82	3	80	3	88	3	87	3	82	2	75	1	2	18	496	25
H17	3	76	3	84	3	81	3	93	3	85	3	84	1	2	19	505	25
H18	3	89	3	75	3	86	3	81	3	92	3	86	1	1	19	510	24
H19	3	79	3	95	3	76	3	86	3	81	3	92	1	1	19	510	24
H20	3	86	3	79	3	97	3	79	3	86	3	81	1	3	19	511	24
H21	3	81	3	85	3	83	3	95	2	79	3	85	2	3	19	511	26
H22	3	75	3	80	3	84	3	84	3	94	2	79	2	2	19	498	25
H23	3	86	3	74	3	78	3	84	3	83	3	94	2	3	20	502	27
H24	3	76	3	87	3	77	3	78	3	88	3	82	2	7	20	495	26
H25	3	78	3	77	3	87	3	78	2	76	3	88	2	6	19	490	25
H26	3	78	3	79	3	77	3	86	2	77	2	76	4	9	20	482	26
H27	3	82	3	77	3	80	3	75	3	87	2	78	4	10	21	489	28
H28	3	80	3	79	3	75	3	77	2	74	3	87	4	11	21	483	28
H29	3	75	3	80	3	77	3	75	2	76	2	74	5	17	21	474	30

資料：教育委員会



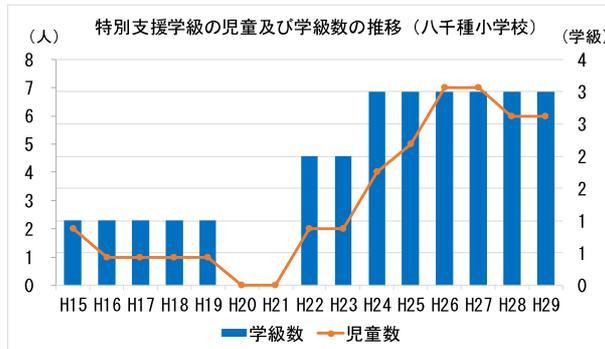
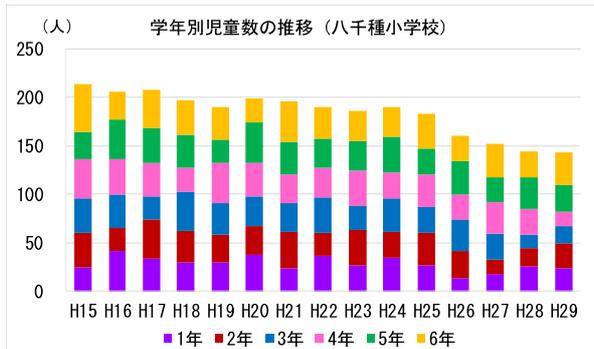
◇八千種小学校

●小学校学年別学級数・児童数・職員数の推移 (八千種小学校)

各年5月1日現在

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		特別支援学級		計		職員数
	学級数 (学級)	児童数 (人)															
H15	1	25	1	35	1	36	2	40	1	28	2	50	1	2	9	216	13
H16	2	41	1	24	1	35	1	36	2	41	1	29	1	1	9	207	14
H17	1	33	2	41	1	24	1	34	1	36	2	40	1	1	9	209	13
H18	1	29	1	33	2	41	1	24	1	34	1	36	1	1	8	198	13
H19	1	29	1	29	1	33	2	41	1	24	1	34	1	1	8	191	13
H20	2	37	1	30	1	31	1	34	2	42	1	25	0	0	10	199	12
H21	1	24	2	37	1	30	1	30	1	33	2	42	0	0	8	196	12
H22	2	36	1	24	1	37	1	30	1	30	1	33	2	2	9	192	13
H23	1	27	2	36	1	25	1	36	1	31	1	31	2	2	9	188	13
H24	1	34	1	27	1	35	1	27	1	36	1	31	3	4	9	194	13
H25	1	27	1	33	1	27	1	34	1	26	1	36	3	5	9	188	15
H26	1	14	1	27	1	33	1	26	1	34	1	26	3	7	9	167	16
H27	1	18	1	14	1	27	1	33	1	26	1	34	3	7	9	159	13
H28	1	26	1	18	1	14	1	27	1	33	1	26	3	6	9	150	13
H29	1	24	1	25	1	18	1	15	1	28	1	33	3	6	9	149	12

資料：教育委員会



(iii) 中学校の生徒数と学級数の推移

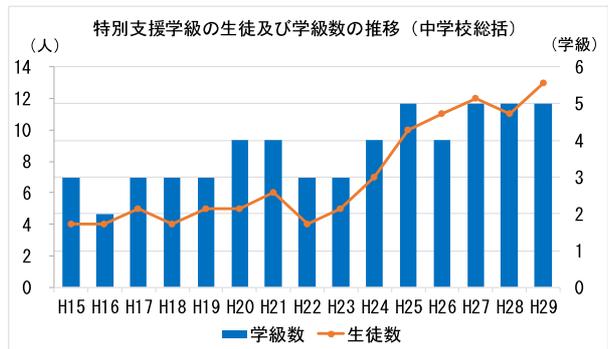
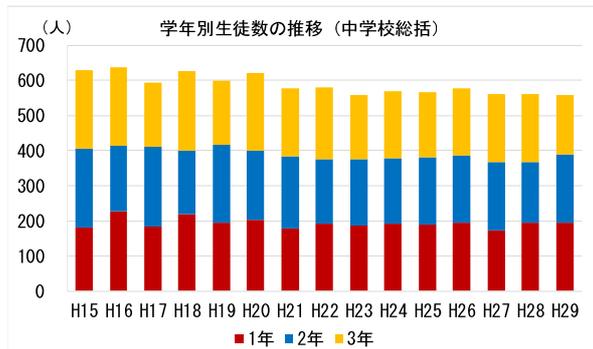
- ①2003年（平成15年）から2017年（平成29年）までの14年間で生徒数は9%減少しています。
- ②普通学級は20学級から17学級に3学級減少しています。
- ③特別支援を必要とする児童数が3倍に伸びており、学級数も2.5倍の5学級となっています。

◇中学校総括

●中学校学年別学級数・生徒数・職員数の推移（中学校総括） 各年5月1日現在

	1年		2年		3年		特別支援学級		計		職員数
	学級数 (学級)	生徒数 (人)									
H15	6	182	7	223	7	223	3	4	23	632	48
H16	7	229	6	184	7	224	2	4	22	641	46
H17	6	183	7	228	6	183	3	5	22	599	47
H18	7	219	6	182	7	226	3	4	23	631	47
H19	5	196	7	219	6	183	3	5	21	603	50
H20	6	203	5	196	7	222	4	5	22	626	47
H21	5	180	6	204	5	193	4	6	20	583	44
H22	6	192	5	182	7	205	3	4	21	583	46
H23	6	186	6	189	5	182	3	5	20	562	46
H24	6	192	6	186	6	190	4	7	22	575	48
H25	5	189	5	191	6	187	5	10	21	577	48
H26	5	194	6	191	5	192	4	11	20	588	48
H27	5	173	5	194	6	194	5	12	21	573	50
H28	6	194	5	172	5	195	5	11	21	572	49
H29	6	194	6	194	5	171	5	13	22	572	57

資料：教育委員会



(iv) 各中学校の生徒数と学級数の推移

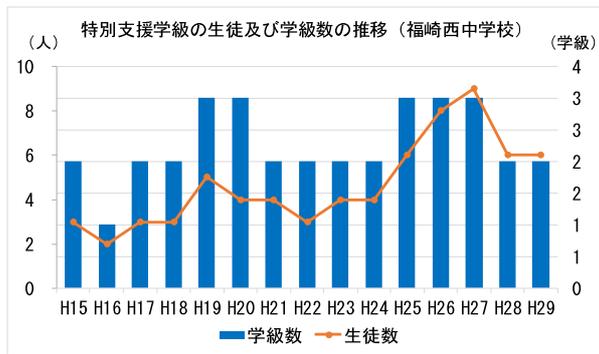
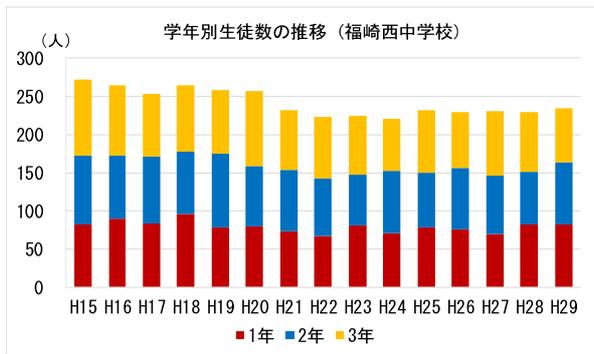
- ①両中学校とも2003年（平成15年）から2017年（平成29年）までの14年間で生徒数は減少していますが、福崎東中学校は7%減少し、福崎西中学校は12%減少しています。
- ②福崎東中学校の普通学級数は各学年3または4学級、福崎西中学校の普通学級数は各学年2または3学級となっており比較的安定して推移しています。
- ③特別支援を必要とする生徒数は両中学校とも増加傾向を示しています。

◇福崎西中学校

●中学校学年別学級数・生徒数・職員数の推移 (福崎西中学校 旧福崎中学校) 各年5月1日現在

	1年		2年		3年		特別支援学級		計		職員数
	学級数 (学級)	生徒数 (人)									
H15	3	82	3	91	3	99	2	3	11	275	23
H16	3	90	3	83	3	92	1	2	10	267	22
H17	3	83	3	88	3	82	2	3	11	256	24
H18	3	96	3	82	3	86	2	3	11	267	23
H19	2	79	3	96	3	83	3	5	11	263	23
H20	2	80	2	79	3	98	3	4	10	261	22
H21	2	74	2	80	2	78	2	4	8	236	19
H22	2	67	2	75	3	81	2	3	9	226	21
H23	3	81	2	67	2	76	2	4	9	228	22
H24	2	71	3	82	2	67	2	4	9	224	22
H25	2	79	2	71	3	82	3	6	10	238	24
H26	2	76	3	81	2	72	3	8	10	237	24
H27	2	70	2	76	3	84	3	9	10	239	25
H28	3	82	2	70	2	77	2	6	9	235	23
H29	3	82	3	82	2	70	2	6	10	240	23

資料：教育委員会

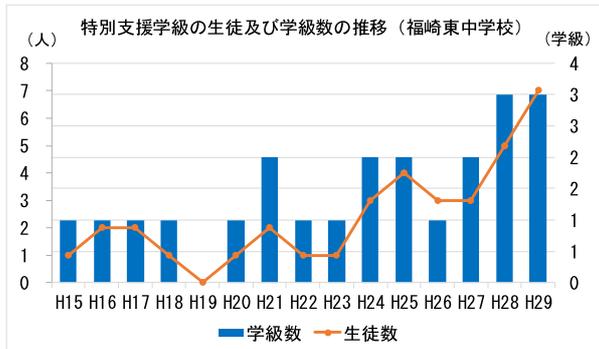
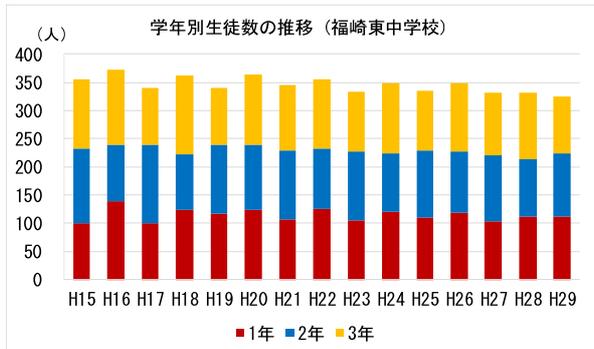


◇福崎東中学校

●中学校学年別学級数・生徒数・職員数の推移 (福崎東中学校) 各年5月1日現在

	1年		2年		3年		特別支援学級		計		職員数
	学級数 (学級)	生徒数 (人)									
H15	3	100	4	132	4	124	1	1	12	357	25
H16	4	139	3	101	4	132	1	2	12	374	24
H17	3	100	4	140	3	101	1	2	11	343	23
H18	4	123	3	100	4	140	1	1	12	364	24
H19	3	117	4	123	3	100	0	0	10	340	25
H20	4	123	3	117	4	124	1	1	12	365	25
H21	3	106	4	124	3	115	2	2	12	347	25
H22	4	125	3	107	4	124	1	1	12	357	25
H23	3	105	4	122	3	106	1	1	11	334	24
H24	4	121	3	104	4	123	2	3	13	351	26
H25	3	110	3	120	3	105	2	4	11	339	24
H26	3	118	3	110	3	120	1	3	10	351	24
H27	3	103	3	118	3	110	2	3	11	334	25
H28	3	112	3	102	3	118	3	5	12	337	26
H29	3	112	3	112	3	101	3	7	12	332	24

資料：教育委員会



### 3-2 対象施設等の老朽化状況の実態整理

#### 1. 老朽化実態調査

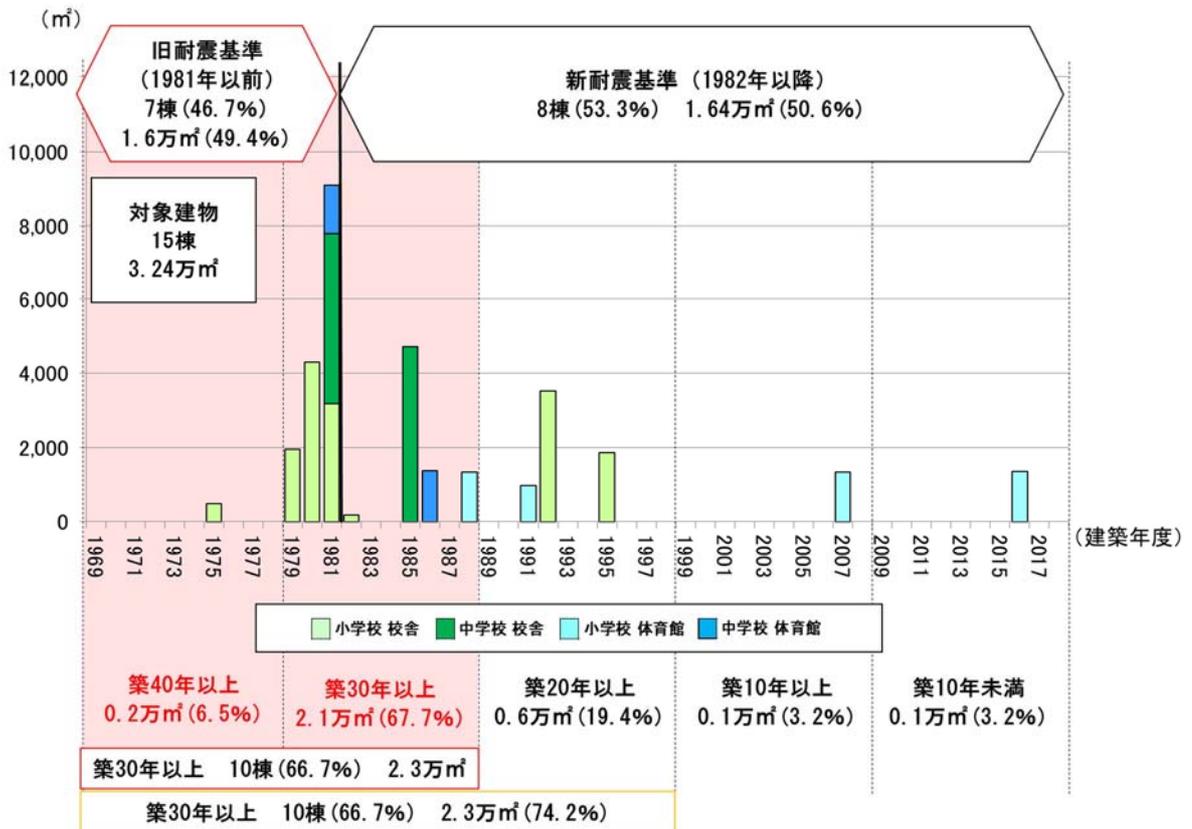
本町では、建築基準法の旧耐震基準（昭和56年（1981年）以前）で建築された校舎に対して、コア抜き調査による、圧縮強度試験、中性化試験を実施し、過去に行われた耐震診断結果と比較分析によって構造躯体の健全性の把握を行いました。

また、全ての小中学校に対し「学校施設等の長寿命化計画策定に係る手引」及び「学校施設等の長寿命化計画策定に係る解説書」に則って、現地調査を行い、劣化状況の評価、健全度の算定を行いました。

#### 2. 構造躯体の健全性について

建築基準法の旧耐震基準で建築された校舎（福崎小学校・高岡小学校・田原小学校・福崎東中学校）に対し、構造躯体の健全性判定のためにコア抜き調査を実施しました。コア抜き調査対象は校舎7棟、23地点とし、調査箇所は、約10年前に実施された耐震化診断のコア抜き調査の結果を基に中性化深さの値の高い地点等を考慮して、地点を選定し実施しました。

築年別整備状況



コア抜き調査の結果は以下のとおりです。

福崎小学校コア抜き調査結果まとめ

前回調査年度	棟名称	棟番号	築年数	調査階	前回調査結果				今回調査結果					
					コア名称	圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )		中性化深さ (mm)		コア名称	圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )		中性化深さ (mm)	
						補正後	階平均	最大値	平均値		補正後	最大値	最小値	平均値
H16	北校舎	10	39年	1F	10-1	35.5	43.0	0.0	0.0	10-1	33.9	3.0	0.0	0.7
					10-2	39.4		0.0	0.0		0.0	0.0		
					10-3	54.0		10.0	7.0					
				2F	10-4	37.2	0.0	0.0						
					10-5	31.5	0.0	0.0						
					10-6	47.8	11.0	10.5	10-2	48.1	24.5	8.0	14.1	
				3F	10-7	38.4	0.0	0.0						
					10-8	32.8	0.0	0.0						
					10-9	36.3	17.0	12.0	10-3	41.9	22.5	13.5	17.6	
H17	南校舎 (東)	14-1	37年	1F	14-1-1	33.9	31.7	22.0	16.5	14-1-1	35.5	8.0	1.0	4.8
					14-1-2	33.7		20.5	17.8					
					14-1-3	27.5		11.5	6.4					
				2F	14-2-1	34.5	3.5	1.8						
					14-2-2	33.3	1.5	0.9						
					14-2-3	36.9	18.0	14.6	14-1-2	35.4	22.0	17.5	20.3	
				3F	14-3-1	38.0	24.0	21.0						
					14-3-2	39.2	0.0	0.0						
					14-3-3	32.9	26.5	17.8	14-1-3	36.2	25.0	5.5	18.1	
	南校舎 (西)	14-2	37年	1F	14-1-1	28.6	31.1	26.5	22.8	14-2-1	28.8	0.5	0.0	0.1
					14-1-2	32.8		14.0	12.5					
					14-1-3	32.0		6.0	2.2					
				2F	14-2-1	23.6	6.0	3.4						
					14-2-2	26.6	20.5	16.4	14-2-2	26.1	1.0	0.0	0.6	
					14-2-3	24.9	14.0	12.2						
3F	14-3-1	29.2	21.5	17.7										
	14-3-2	25.5	29.5	25.7	14-2-3	27.6	0.0	0.0	0.0					
	14-3-3	30.3	30.5	26.6										

高岡小学校コア抜き調査結果まとめ

前回調査年度	棟名称	棟番号	築年数	調査階	前回調査結果				今回調査結果					
					コア名称	圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )		中性化深さ (mm)		コア名称	圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )		中性化深さ (mm)	
						補正後	階平均	最大値	平均値		補正後	最大値	最小値	平均値
H18	校舎	6	43年	1F	6-1-1	24.2	23.7	7.0	3.9	6-1	20.7	14.5	7.0	10.9
					6-1-2	23.2		1.0	0.4					
				2F	6-2-1	18.1	20.7	3.5	2.7	6-2	16.2	2.5	0.0	1.1
					6-2-2	23.2		2.0	1.0					
	プール棟	7	39年	1	7-1	※検査結果なし			7	27.8	17.5	10.5	13.6	

田原小学校コア抜き調査結果まとめ

前回調査年度	棟名称	棟番号	築年数	調査階	前回調査結果				今回調査結果					
					コア名称	圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )		中性化深さ (mm)		コア名称	圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )		中性化深さ (mm)	
						補正後	階平均	最大値	平均値		補正後	最大値	最小値	平均値
H18	校舎	8	38年	1	8-1-1	46.6	43.6	3.5	1.7	8-1	43.7	11.0	0.0	5.9
		8		1	8-1-2	47.8		3.5	0.9					
		13	36年	1	8-1-3	36.4	2.5	0.9	13-1	33.1	19.0	0.0	6.3	
		8	38年	2	8-2-1	37.6	35.9	7.0	3.4	8-2	34.7	12.0	3.5	8.4
		8		2	8-2-2	35.6		1.5	0.2					
		13	36年	2	8-2-3	34.6	2.0	1.8	13-2	35.7	2.0	0.0	0.3	
		8	38年	3	8-3-1	32.6	31.6	2.0	0.5	8-3	28.5	3.5	0.0	1.1
		8		3	8-3-2	31.2		3.5	1.6					
		13	36年	3	8-3-3	31.1	2.5	0.8	13-3	27.5	0.0	0.0	0.0	
		8	38年	4	8-4-1	22.3	20.0	2.5	1.6					
		8		4	8-4-2	15.9		3.0	1.8	8-4	30.2	7.5	0.0	3.9
		8		4	8-4-3	21.8		2.5	1.7					

福崎東中学校コア抜き調査結果まとめ

前回調査年度	棟名称	棟番号	築年数	調査階	前回調査結果				今回調査結果					
					コア名称	圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )		中性化深さ (mm)		コア名称	圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )		中性化深さ (mm)	
						補正後	階平均	最大値	平均値		補正後	最大値	最小値	平均値
H18	校舎	1	37年	1F	1-1	40.3	34.2	8.5	2.8	1-1	34.8	9.0	0.0	5.1
					1-5	25.0		4.0	1.4					
					1-9	37.2		6.5	3.1					
				2F	1-2	37.3	35.7	5.5	1.2	1-2	29.1	6.0	0.0	2.5
					1-6	32.0		4.0	1.5					
					1-10	37.7		0.0	0.0					
				3F	1-3	40.8	37.9	4.5	0.6					
					1-7	27.0		8.0	3.5	1-3	27.5	16.0	0.0	3.6
					1-11	45.8		0.0	0.0					
				4F	1-4	49.0	43.3	7.5	1.1	1-4	43.8	8.0	1.0	2.9
					1-8	33.4		3.5	0.9					
					1-12	47.0		0.0	0.0					

※築年数は調査時点（平成 29 年）

旧耐震基準の鉄筋コンクリート造の建物については、耐震診断報告書に基づき、コンクリート圧縮強度が 13.5N/mm<sup>2</sup>以下のもの、及び圧縮強度が不明のものは「要調査」建物とし、試算上は、「改築」となります。本調査による「要調査」建物に該当するものは、ありませんでした。

従いまして、本町の小中学校全ての学校施設において「長寿命化が可能」との結果となりました。



コア抜き作業



タッチアップ作業

【中性化試験について】

コンクリートの中性化とは、普段は高アルカリ性で保たれているコンクリートが外部環境の影響を受け、アルカリ性を失って中性になっていく劣化現象のことです。中性化が進むと、鉄筋が腐食し、腐食膨張圧でコンクリートのひび割れや剥落等が生じる可能性が高くなります。

中性化試験を行うことによって、中性化が鉄筋に到達するまでの年数を予測することができ、中性化対策に役立っています。

### 3. 構造躯体以外の劣化状況の調査・評価について

全ての小中学校に対し「学校施設等の長寿命化計画策定に係る手引」及び「学校施設等の長寿命化計画策定に係る解説書」に則って、現地調査を行い、劣化状況の評価、健全度の算定を行いました。

#### (1) 評価基準

屋根・屋上、外壁は、「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」にある評価基準を参考にして目視状況により、内部仕上げ、電気設備、機械設備は部位の全面的な改修年からの経過年数と目視による状況によりA、B、C、Dの4段階で評価しています。

目視による評価【屋根・屋上、外壁】

評価	基準
良好 A	概ね良好
B	部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)
C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)
劣化 D	早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)等

経過年数による評価  
【内部仕上げ、電気設備、  
機械設備】

評価	基準
良好 A	20年未満
B	20～40年
C	40年以上
劣化 D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合

※目視による評価を追加

#### (2) 健全度の算定

健全度は、各建物の5つの部位（屋上・屋根、外壁、内部仕上げ、電気設備、機械設備）について劣化状況を4段階で評価し、A評価：100点満点で数値化した評価指標です。①部位の評価点と②部位のコスト配分を下表のように定め、③健全度を100点満点で算定します。なお、②部位のコスト配分は、文部科学省の「長寿命化改良事業」の校舎の改修比率算定表を参考に、同算定表における「長寿命化」の7%分を、屋根・屋上、外壁に按分して設定しています。

##### ①部位の評価点

	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

##### ②部位のコスト配分

部位	コスト配分
1 屋根・屋上	5.1
2 外壁	17.2
3 内部仕上げ	22.4
4 電気設備	8.0
5 機械設備	7.3
計	60

##### ③健全度

$$\text{総和(部位の評価点} \times \text{部位のコスト配分)} \div 60$$

※100点満点にするためにコスト配分の合計値で割っている。  
※健全度は、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示す。

(右図「劣化状況調査票」記入例における健全度計算例)

	評価	評価点	配分		
1 屋根・屋上	C	40	×	5.1	= 204
2 外壁	D	10	×	17.2	= 172
3 内部仕上げ	B	75	×	22.4	= 1,680
4 電気設備	A	100	×	8.0	= 800
5 機械設備	C	40	×	7.3	= 292
計					3,148
					÷ 60
健全度					52

(3) 健全度の算定

健全度 40 点未満の建物は、優先的に長寿命化改修等の対策を講じることが望ましいとされていますが、本調査の結果、健全度が 40 点未満の建物はありませんでした。

しかし、修繕・改修が必要であるC評価の部位は多数あります。

構造躯体以外の劣化状況一覧表

学校名称	施設名称	建設年度	劣化状況評価					健全度
			屋根 屋上	外壁	内部 仕上げ	電気 設備	機械 設備	
福崎小学校	北校舎	S53年 (1978年)	B	C	C	B	B	52
	南校舎	S55年 (1980年)	C	C	C	B	B	49
	体育館	S62年 (1987年)	C	B	B	B	B	72
高岡小学校	北校舎	S49年 (1974年)	B	C	C	C	C	43
	南校舎	H6年 (1994年)	B	B	B	B	B	75
	体育館	H2年 (1990年)	B	B	B	A	A	81
田原小学校	校舎	S54年 (1979年)	C	C	C	B	B	49
	校舎 (増築部分)	S56年 (1981年)	C	C	C	B	B	49
	体育館	H27年 (2015年)	A	A	A	A	A	100
八千種小学校	校舎	H3年 (1991年)	B	B	B	B	B	75
	体育館	H18年 (2006年)	A	A	A	A	A	100
福崎西中学校	校舎	S59年 (1984年)	C	C	C	B	B	49
	体育館	S60年 (1985年)	B	B	B	B	B	75
福崎東中学校	校舎	S55年 (1980年)	C	C	C	B	B	49
	体育館	S55年 (1980年)	B	B	B	B	B	75

#### 4. 調査の総評

長寿命化計画の目的は維持管理に掛かるトータルコストの縮減と予算の平準化を図りながら学校施設に求められる機能・性能を確保することにあります。その為には老朽化した建物について不具合を直し、耐久性を高めるとともに建物の機能や性能を現在の学校が求められている水準まで引き上げる改修を行う必要があります。

今回の調査全般で感じられたことは、各校とも経年数に応じた劣化が見られ、突出した劣化の進行や特殊な症状などは見られませんでした。

同一校舎でも部分的な修繕は行われていますが、全体にわたる大規模な修繕が行われていない学校もあり、一部に防水シートの剥がれ、外壁躯体の爆裂（※）・塗膜の剥がれ、鉄部の腐食など早急に対策が必要な箇所もありました。

また劣化以外では外壁の換気ガラリ（雨よけのフードが無い形状）から強風時に雨が入り込み天井から漏水している校舎がありました。

今回対象の6校について建物の構造躯体を主に屋上から内部まで各棟の現状を以下にまとめます。

※爆裂：鉄筋コンクリート中の鉄筋が錆びて、膨張しコンクリートを押し出した状態。



庇裏 爆裂事例



○ 各学校施設における主な劣化状況

福崎小学校

	屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
北校舎 (築40年)	B 防水シートの膨れ(一部)	C 爆裂により鉄筋が露出	C 窓の廻りで漏水、塗膜剥離
			
南校舎 (築38年)	C 天井に雨漏り跡(多数)	C 防水シートの膨れ(一部)	C 塗膜剥離
			
体育館 (築31年)	C 屋根茅葺材の錆。 防水シートの膨れ	B 庇裏塗膜剥離	B 仕上膜剥離
			

○ 各学校施設における主な劣化状況

高岡小学校

	屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
北校舎 (築 44 年)	B シート防水の膨れ 	C 軒裏塗膜剥離 	C 内壁クラック 
体育館 (築 28 年)	B シート防水の劣化 	B 軒裏樋漏水跡、軒裏爆裂 	B 天井材破損 
南校舎 (築 24 年)	B 瓦割れ 	B 外壁ひび割れ (他多数) 	B 漏水による塗膜剥離 

○ 各学校施設における主な劣化状況

田原小学校

	屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
校舎 (築 39 年)	C 防水シートの膨れ 	C 塗膜剥離 	C 塗膜剥離 (漏水跡) クラック塗膜剥離 (漏水跡) 
校舎 (増築部分) (築 37 年)	C 防水シートの変質 (摩耗)、 	C 樋錆、庇ひび割れ 	C 雨漏り跡 
体育館 (築 3 年)	A 特記事項なし 	A 特記事項なし 	

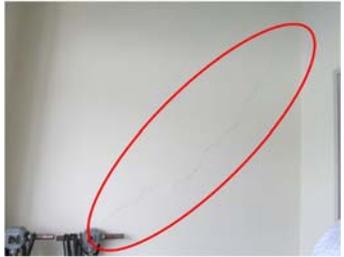
○ 各学校施設における主な劣化状況

八千種小学校

	屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
校舎 (築 27 年)	B シート防水の摩耗 	B 塗膜退色・摩耗、ひび割れ、 	B 内壁クラック 天井材破損 
校舎 (築 27 年)	B 塔屋タラップ台鋼板に錆、 腐食 	B 軒裏塗膜剥離 	B 天井漏水跡 
体育館 (築 12 年)	A 特記事項なし 		

○ 各学校施設における主な劣化状況

福崎西中学校

	屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
校舎 (築34年)	C シート防水の変質(摩耗)、 	C ひび割れ、 	C 漏水により塗膜剥離、 
校舎 (築34年)	C シート防水のめくれ 	C 塗膜剥離、樋錆 	C 内壁クラック 
体育館 (築33年)	B シート防水の変質(摩耗) 	B 庇裏 天井塗膜剥離、 	B 壁材剥がれ 

○ 各学校施設における主な劣化状況

福崎東中学校

	屋根・屋上	外壁	内部仕上げ
校舎 (築 38 年)	C 押えコンクリートの破損 	C 爆裂、露筋 	C 内壁クラック 
校舎 (築 38 年)	C シート防水の剥がれ 	C 庇裏爆裂、露筋 	C タイル欠損 
体育館 (築 38 年)	B 特記事項なし 	B ひび割れ、樋錆、 	B 壁材の剥がれ、 

### 3-3 教育現場から提示された課題や要望

3-2 対象施設等の老朽化状況の実態整理から、躯体については各校とも経年数に応じた劣化が見られたものの、突出した劣化の進行や特殊な症状がないことが確認されました。躯体以外の部分について、教育現場で感じている課題や要望についてヒアリングした結果は以下のとおりです。

#### ◇小学校・中学校の主な課題

学校名	普通教室の空調	トイレの老朽化※	洋式トイレ不足	余剰教室不足	オープンスペース	バリアフリー化不足	LED照明不足
八千種小学校	●	●	●	△		●	●
田原小学校	●	●	●	●	●	●	●
福崎小学校	●	●	●	●	●		●
高岡小学校	●		△	●		●	●
福崎東中学校	●	●	●	●	●	●	●
福崎西中学校	●	●	●	△	●		●

● : 大きな課題として認識している。

△ : 余力があれば解決したい課題として認識している。

無印 : 課題として認識していない。

※トイレの老朽化には（臭気がひどい。パーティションが破損。水流不足。）を含む。

多くの学校から、共通の課題などが提示されましたが、年々、真夏日や猛暑日が増加していることもあり、全ての学校から、真っ先に空調設備（エアコン）の設置についての要望が出されました。

次いでトイレの老朽化や洋式化についての対策と教室の不足（今後不足の懸念）について課題が提示されました。トイレのパーティション補修や臭気対策には教師自らが対応し苦慮していること、また、教室に余裕が無いことから、特別支援学級や新学習指導要領等に柔軟に対応することができるのかについて懸念が提示されました。

オープンスペースが無いことによる、ちょっとしたイベント・説明会等の対応に苦心していることやバリアフリー化が不十分であることについても課題が提示されました。

LED照明などのエコ改修については、全ての学校から要望がありましたが、他の施設整備の優先を望まれています。

その他各学校から提示された要望・課題は次のとおりです。

参考 その他各学校から出された要望・課題（小学校）

学校名	要望・課題
福 崎 小学校	<p>○校舎、体育館の雨漏り</p> <p>○北側校舎が寒い。</p> <p>○手洗い場が老朽化している上に、シンクの角が危険。</p> <p>○プールサイドのコンクリート、塗装が劣化。また、プールに日陰が無い。</p> <p>○離れた教室と職員室を結ぶ連絡施設が必要。</p> <p>○保健室にシャワーが必要。</p> <p>○上下に動く黒板が必要。</p> <p>○外トイレの天井及び側壁に剥離、クラックあり。また、使用状況が悪い。</p> <p>○北校舎2階廊下（手洗い場付近）の天井に、いくつか穴が開いている。</p> <p>○校舎の壁、教室・廊下の天井ボードの剥がれが多い。</p> <p>○校舎外側の雨樋がさびて劣化がひどい。</p> <p>○1F体育館への渡り廊下屋根、透明アクリル汚れ、鉄骨錆あり。渡り廊下に鉄筋露出。</p> <hr/> <p>○放送機器の老朽化</p> <p>○駐車場に車を入れるのに渡り廊下を通過するので危険。グリーンゾーンが必要。</p> <p>○コンセントの設置位置が使いづらい。</p> <p>○南校舎の階段の手すりが動く。</p> <p>○北校舎教室の床の改修（研磨）。</p> <p>○校舎内換気扇の改修。</p> <p>○1F給食室シャッター開閉困難</p>
高 岡 小学校	<p>○体育館のトイレの洋式化が必要。</p> <p>○プールに日陰が無い。</p> <p>○校舎内の床、階段の壁等の塗装が、浮いて剥がれている。</p> <p>○運動場体育倉庫の雨樋の一部が、腐食している。</p> <p>○北校舎（階段付近の亀裂、音楽室前廊下東側の亀裂、庇裏側塗装の剥離、1階廊下ピータイルの浮き）</p> <p>○体育館（玄関上の雨漏り、床の木のビスの浮き、北側（プレールームの上）に水が溜まる）また、体育館と北校舎の間に雨漏りによる穿孔及び塗装の浮き。</p> <p>○高架水槽付近樋のつまり及び高架水槽への階段にて壁面塗装の剥離。</p> <p>○地階（給食室）の床に水が溜まる。</p> <p>○運動場南入口の階段下の踊り場の水はけが悪い。（現在この入口は閉鎖）</p> <hr/> <p>○特別支援学級に柔軟に対応できない。</p> <p>○体育館の音響装置の老朽化</p> <p>○校舎の放送室の設備の規格が古く、調子が不安定。</p> <p>○ホールの床が一部反っている。ホールのブラインド（電動）の一番左が降りない。</p> <p>○グラウンドの周囲にある大きな木々の剪定及び除草に困っている。</p> <p>※プール改修による機能向上は想像以上であり、教育環境向上に効果的だった。</p>

※本頁において、長寿命化に係る項目を上段に、維持管理・修繕等に係る項目を下段に記載しています。

参考 その他各学校から出された要望・課題（小学校）

学校名	要望・課題
田原小学校	<p>○冬が寒い。（ガスストーブでは一部しか暖まらない）</p> <p>○理科室・音楽室とも1教室では不足のため各2教室必要。</p> <p>○プールに日陰になる場所が無い。</p> <p>○校舎の庇の劣化が進み、コンクリートの剥がれが見られる。場所によっては鉄筋が見えている。</p> <p>○雨量が多い時は、廊下、教室に雨漏りが見られる。</p> <p>○教室床の劣化がひどい。</p> <p>○廊下の長尺シートに穴が空いている部分が多い。</p> <p>○収納場所が少ないため、リフト室（給食用）を倉庫として使わざるを得ない。</p> <p>○防火扉が開きやすい状況になっている。</p> <p>○高学年になると、人数が増えるため、個人の収納場所が不足している。</p> <p>○教室の黒板で、表面が劣化し、書きにくくなっている場所がある。</p> <hr/> <p>○古いTVが残っている。</p> <p>○ガスストーブのコックが老朽化のため、簡単に抜き差しができない教室がある。</p> <p>○教室のコンセントの数が少なく、不便を感じる人が多い。</p>
八千種小学校	<p>○ベランダの防水対策（緊急対応）</p> <p>○体育館が避難場所の指定となっているが、裏山も迫り土砂災害区域（土石流）に隣接。</p> <p>○校舎も一部、土砂災害区域（がけ崩れ）に近接。</p> <p>○特別教室（静かな環境）が不足。</p> <p>○プールに緊急時の連絡手段がない。インターホンか電話の設置が必要。</p> <p>○2, 3階廊下側の窓の落下防止柵が必要。現状は安全確保のため全開できない。</p> <p>○体育倉庫裏（体育館への渡り廊下側）へのコンクリートが剥がれ、鉄筋が露出している部分がある。</p> <p>○プールサイドシートが劣化のため破損し、児童が歩くのに危険。</p> <p>○教室の黒板が消えにくい。消してもきれいにならない。</p> <p>○1階手洗い場の床が波打っている。</p> <p>○3階音楽室の前の廊下、2階放送室の雨漏り</p> <hr/> <p>○音楽教室の絨毯が老朽化。</p> <p>○放送機器及び電話の規格が古い。</p> <p>○児童玄関前スロープの手すりの足元のぐらつき。</p> <p>○プールのろ過機が一機壊れている。交互運転できない。</p> <p>○1階廊下の物入にて、既設の金属製折れ戸が開け閉めの時に外れそうになり危険。</p> <p>○体育館への渡り廊下が吹き曝しで雨が降ると廊下が濡れるため、サイドカバーが必要。</p> <p>○剪定・草刈り等、環境整備が大変。用務員1人だけでは負担が大きい。</p> <p>※オープンスペースはとても使い勝手が良い。</p>

※本頁において、長寿命化に係る項目を上段に、維持管理・修繕等に係る項目を下段に記載しています。

参考 その他各学校から出された要望・課題（中学校）

学校名	要望・課題
福崎西中学校	<p>○英語の専用教室が必要。</p> <p>○空き教室は今後不足すると思われる。また、避難所としての備蓄庫が無い。</p> <p>○ロッカーが狭く、現代の環境と整合していない。</p> <p>○校舎外壁塗装</p> <p>○校地周囲フェンスの老朽化</p> <p>○駐車場のアスファルト化並びに外溝工事</p> <p>○4階、3階、2階にて雨漏りあり。</p> <hr/> <p>○水道の水が流れにくい。</p> <p>○自転車置き場の雨樋ジョイント部が破損。</p> <p>○屋上防水及び排水ドレンの詰まり解消</p> <p>○水道管止水バルブ（屋上高架水槽・各階・校舎外）が不良または未設置。</p> <p>○プールのポンプ2号機故障（逆止弁）</p> <p>○運動場改修（100m走路及びテニスコートの土の入れ替え，砂場の砂の入れ替え）</p> <p>○グラウンドの木々が大きくなりすぎており，設備に影響のある箇所がある。</p>
福崎東中学校	<p>○普通教室の棚や清掃用具入れが老朽化。</p> <p>○黒板の位置が高すぎて、小柄な教師や生徒が使いづらい。</p> <p>○窓からの雨の吹き込みが激しい。</p> <p>○EV設置が必要。</p> <p>○高齢者向け避難場所に1階会議室を考えているが狭い。</p> <p>○給食配膳室に戸が無い。</p> <p>○空きスペースが少なすぎる。（女子更衣室が無い。生徒会室の半分が物置。多目的室の半分が更衣室。特別支援学級が柔軟に対応できない。）</p> <p>○地域の人たちが利用する駐車場が必要。（アスファルト化）</p> <p>○校舎外壁にクラック等の損傷箇所多数あり。雨漏りもいたるところで見受けられる。</p> <p>○体育館上方壁面にて剥がれかけており、また、体育館は開閉できる窓が少なく，夏の暑い中では換気が十分にできない。換気設備が必要である。</p> <p>○壁から鉄筋が見えている箇所がある。プール棟の外壁にも錆がある。</p> <p>○内装は床・天井の張替え、及び廊下は床の張替えが必要。</p> <p>○外周及び運動場のフェンスで破損している箇所がある。防球ネットもない。</p> <p>○防犯に対する対策がほとんどない。防犯カメラ設置や通用門への対策が必要である。</p> <p>○柱が張り出しており、教室や廊下が狭い。</p> <hr/> <p>○体育館の2階へは外階段しか出入り口が無い。</p> <p>○野球、ソフト場バックネット裏に木や切り株、土砂溜りがあり、整備が必要である。</p>

※本頁において、長寿命化に係る項目を上段に、維持管理・修繕等に係る項目を下段に記載しています。

### 3-4 学校施設の課題

本町の人口推移や将来推計、小中学校施設の実態を踏まえ、学校施設の目指すべき方向性を踏まえた課題を整理します。

1. 安全性にかかわる課題
[構造躯体に関わる課題]
<ul style="list-style-type: none"><li>・外壁や屋上防水の劣化などによる雨漏りなどは、構造躯体の劣化に直結し、建物の寿命を早めてしまいます。屋上・外壁にA判定（概ね良好）された校舎等は2棟しかなく、安全性を確保するための改修が早期に求められています。</li></ul>
[防災拠点にかかる課題]
<ul style="list-style-type: none"><li>・防犯への安全性に配慮した施設整備を図るとともに、障害の有無に関わらず安心して学校施設を利用できるようエレベーター、多目的トイレなど防災機能の強化、ユニバーサルデザインやバリアフリー化が不足しています。</li></ul>
[その他施設にかかる課題]
<ul style="list-style-type: none"><li>・利用できない遊具や飼育動物のいない飼育施設、ブラウン管TV時代のブランケットなどが残されたままとなっており、学校施設利用の効率性や安全性に課題があります。</li><li>・階段手すりの欠損や洗面台など普段の生活に関わる施設で安全性に問題を抱えています。</li></ul>
2. 教育環境にかかわる課題
[熱中症対策や快適性にかかる課題]
<ul style="list-style-type: none"><li>・保健室、コンピュータ室など一部を除き、空調施設が整備されていません。猛暑日が頻発している現状では、児童や生徒の学習意欲の減退や体調不良の恐れがあります。</li><li>・プールに見学者や監視員のための日射遮蔽や雨を防ぐための施設が不足しています。</li><li>・一部のトイレは便器や配管などの更新が進んでおらず、臭気がひどくパーティションなどの破損が目立ち、衛生面や生活面に課題を抱えています。</li></ul>
[学習環境にかかる課題]
<ul style="list-style-type: none"><li>・時代に即した多機能かつ高機能な教育環境の確保・教育ニーズに応じた少人数学習・特別支援教育の確保をするためには、教室数が不足している学校があります。</li><li>・保護者との懇談や1学年程度を集めた授業や説明会などのためのオープンスペースが無い学校があります。</li></ul>
[エコ改修にかかる課題]
<ul style="list-style-type: none"><li>・環境負荷や維持管理コストの低減を図るとともに、環境教育に取り組む施設が不足しています。</li></ul>
[教職員の職場環境にかかる課題]
<ul style="list-style-type: none"><li>・施設の老朽化や施設の陳腐化が、教職員等の事務負担や学校施設等の維持管理に負担をかけています。</li></ul>

## 第4章 学校施設整備の基本的な方針等

### 4-1 学校施設の規模・配置計画等の方針

#### (1) 児童・生徒数からみた学校配置・規模

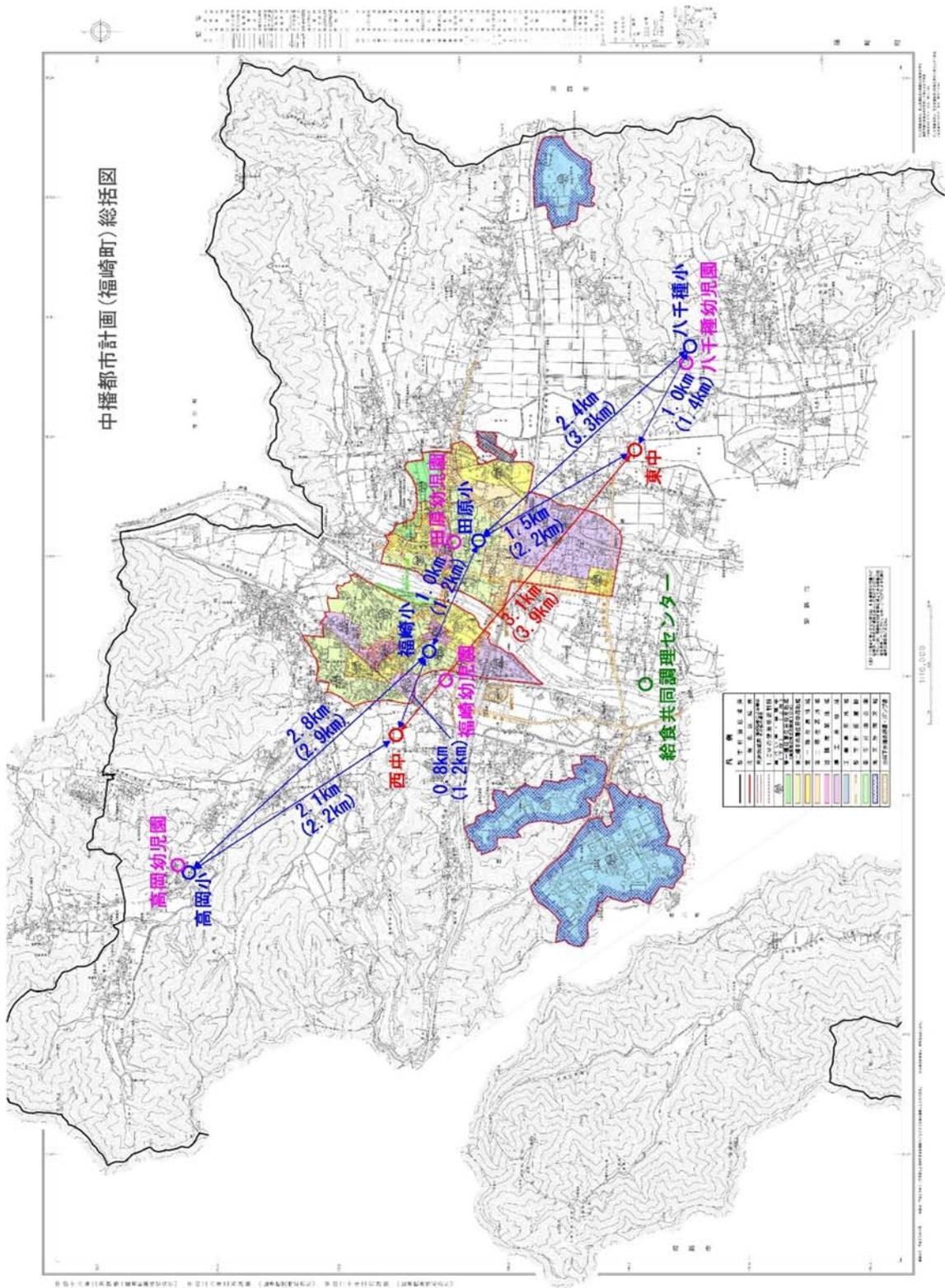
現在の小・中学校の配置は、市川を挟み小学校各2校、中学校各1校とバランス良く配置されています。年齢3区分別人口の将来推計からは、町全体で見れば、児童・生徒数は、総人口と同様に若干減少するものと考えられます。

過去15年間の児童・生徒数の推移を見ると、高岡小学校及び八千種小学校の児童数は他の小学校に比べ減少傾向がやや大きい状況です。このことから両校は将来において、学校施設の良好な維持を継続するための管理方法や活用方法の検討が必要になってくると想定されます。田原小学校では教室に余裕がありません。今後の児童数の推移を見守り、必要に応じて施設の更新や活用方法の検討が必要です。また、福崎小学校では、一部の校舎を転用したことや特別支援学級が増加傾向にあることから教室数不足が懸念されます。

中学校を含めた学校施設全体では、使い勝手の良いオープンスペースが無いことや余裕教室が無いことに苦慮している学校があります。教室数の伸びで見たように特別支援を必要とする児童や生徒は今後も増加するものと見込まれることから、外部施設の活用や増築も含めた検討が必要になってくると想定されます。

本町では、各学校施設単位では様々な課題を抱えているものの、今後も町全体としての児童・生徒数は緩やかな減少に止まっており、また、既存施設の有効活用の観点から、現在の小・中学校の規模や配置を維持します。

# 小中学校の配置状況



上段の距離：各施設間の直線距離  
 下段の距離：各施設間を道路沿いに移動する場合の到達距離

## (2) 施設面からみた学校配置

### (i) 小学校の施設

高岡小学校は、北校舎が築43年経過し健全性がやや低いことを除けば他の施設は健全度が高く、八千種小学校も全般的に健全度が高い評価を与られています。また、両校ともに施設の木質化ができており、使い勝手の良いオープンスペースが確保されているなど、小学校施設としては高い資質を備えています。

田原小学校と福崎小学校は、いずれも校舎の劣化が進行しており、健全度もやや低い評価となっています。

### (ii) 中学校の施設

福崎東中学校は旧耐震基準で1980年（昭和55年）に建築されていますが、構造躯体の健全性には問題がなく必要な耐震補強が実施されています。福崎西中学校は1984年（昭和59年）から1986年（昭和61年）にかけて新耐震基準で建築されています。

耐震基準の差異はあるもの、建築年が近く、両中学校施設の内容や老朽度は大差ない状況になっています。

本町の小・中学校においては、施設の更新が進んでおらず、施設の老朽化や陳腐化が進行しています。しかしながら、構造躯体の健全度は確保されていることから、長寿命化改修を実施し、現在の施設配置を維持します。

また、長寿命化改修に合わせ、将来の教育環境や学校施設の目指すべき姿を勘案しながら機能充実します。

## 4-2 改修等の基本的な方針

学校施設の実態や本町の社会情勢を踏まえつつ、学校施設の目指すべき姿を実現していくための改修等の基本的な方針を示します。

### 方針1：長寿命化の基本方針

定期的な点検及び計画的な改修を行い、建物の機能低下や雨漏りの発生による建物内部への被害、外壁材の落下等の不具合の拡大を防ぐことにより、安全で安心して学校生活を送ることができるよう施設を維持、確保します。

さらに、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減・予算の平準化を実現するため、以下に示すような建物を除き、改築より工事費が安価で工期が短く、廃棄物や二酸化炭素の排出量が少ない長寿命化改修への転換を図ります。なお、改築せざるを得ない建物があった場合には、改築までの期間に応急的な保全を行うなど、当面の安全性・機能性等の確保に留意します。

- 鉄筋コンクリートの劣化が激しく、改修に多額の費用がかかるため、改築した方が安価となる建物
- コンクリート強度が著しく低い建物（おおむね $13.5\text{N/mm}^2$ 以下）
- 基礎の多くの部分で鉄筋が腐食している建物
- 校地環境の安全性が欠如している建物
- 建物の配置に問題があり、改修によっては適切な教育環境を確保できない建物
- 学校の適正配置など地域の実情により改築せざるを得ない建物

### 方針2：目標使用年数の方針

本町の学校施設は高い圧縮強度を確保しており、また、必要に応じ耐震補強を実施していることから、日本建築学会の「建築物の耐久計画に関する考え方」を踏まえ、長寿命化する建物の目標使用年数として、80年を設定します。

### 方針3：機能や性能向上の方針

老朽化対策を進めるにあたり、劣化した施設を単に建築時の状況に戻すだけでなく、安全安心な施設環境の確保など、時代のニーズに対応した施設への転換を目指します。また、改修を行う際は、日常の維持管理が行いやすいよう十分に配慮します。

## 方針4：予防保全の方針

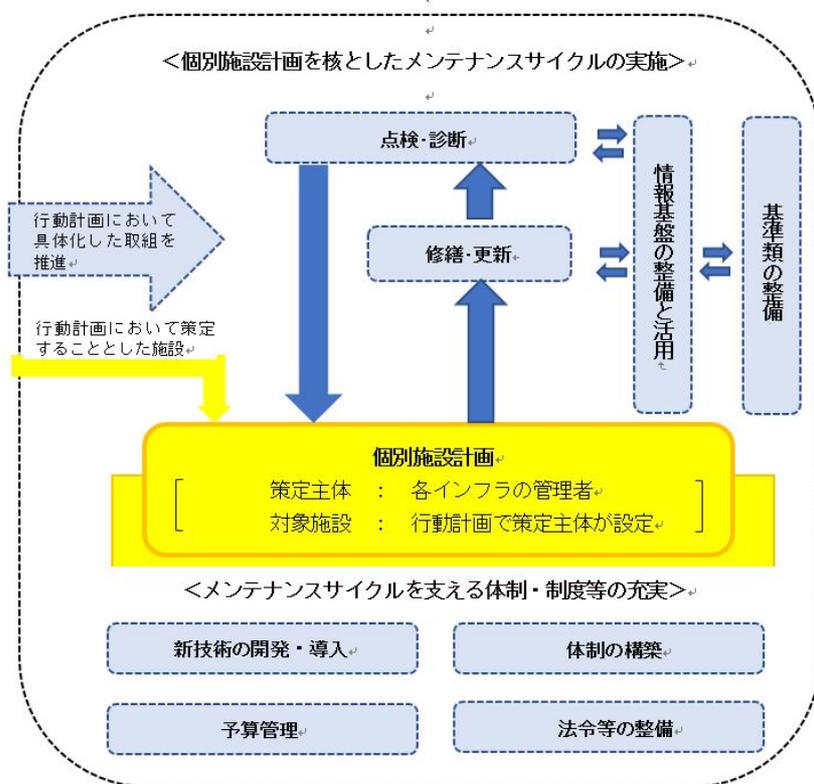
利用者が安全に施設を利用するためには、施設・設備を適切に維持管理・改善していくことが不可欠です。施設・設備の不具合を早期に発見して適切に処置することは、安全管理の面からも重要であることから、施設・設備の実態を把握し適切に評価を行い、従来の「事後保全」型の管理から、「予防保全」型の管理への転換を図ります。

この実現のために以下の2つの視点について実施していきます。

### ①メンテナンスサイクルの構築

予防保全型の実施には、点検・診断の結果に基づき、必要な対策を適切な時期に、着実かつ効率的・効果的に実施するとともに、これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用する仕組みが重要になります。

そのためにメンテナンスサイクルの構築を進めていきます。



### ②多段階の対策

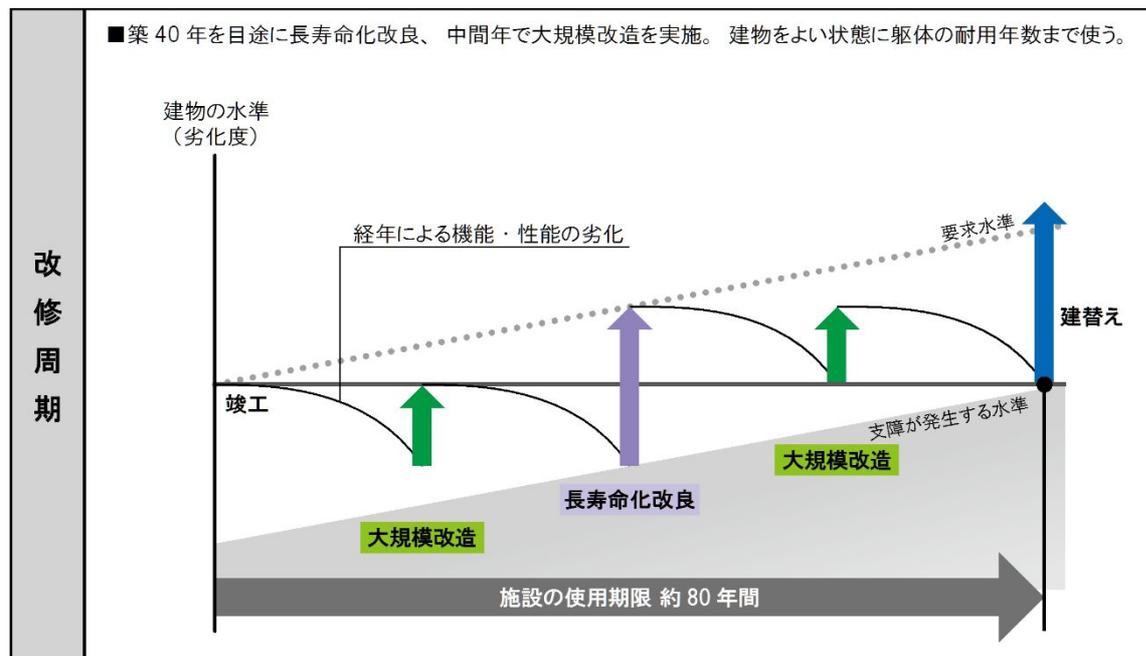
維持管理・更新に係る技術的知見やノウハウは、未だ蓄積途上です。このため、新たに得られた知見やノウハウを確実に蓄積し、それらを基に、管理水準を向上させる取組を継続していきます。

一方、修繕や更新の実施時期等の判断には限界があることを考慮する必要があります。このため、劣化や損傷が直ちに利用者や第三者の被害につながることはないよう、施設の特性に応じて必要な多段階の対策（フェイルセーフ）を講じていきます。

## 方針5：改修周期の設定

従来の維持管理では、建物や施設に深刻な劣化や不具合が生じてから改修を行ってきたため、表面化した不具合に対してのみの対応に止まり、建物や施設の劣化を抑制することができませんでした。その結果、40年から50年で改築せざるを得ない状況に陥っていました。

今後は部位・部材別の計画更新周期を基本として、竣工後約20年で機能回復のための大規模改造を実施し、目標使用年数の中間点である約40年で機能回復と耐用性、快適性等の向上のための長寿命化改修を行います。その後、約20年で再度大規模改造を実施することで、目標使用年数までその機能を維持します。



なお、建築物は完成した時点から時間の経過により劣化が進行します。劣化の進行は建築物の部位により差があり、構造に重大な影響を与える場合もあるため、優先的に予防保全を実施すべき部位、あるいは、事後保全でも支障がない部位等、部位ごとの重要度を順位付けして取り組みます。

## 第5章 基本的な方針を踏まえた施設整備の水準等

### 5-1 改修等の整備水準

長寿命化改修の実施に当たっては、単に建築時の状態に戻すだけでなく、建物の長寿命化や設備機器等の更新等により建物の耐久性を高めるとともに、児童・生徒にとって安全・安心で快適な生活環境や学習環境の改善を目的として、省エネルギー化や多様な教育形態による活動が可能となる環境の提供など、現代の社会的な要求に応じることのできる水準を確保します。

#### 安全・安心な教育環境の確保（老朽化への適切な対応）

- ① 屋上防水および屋根改修（メンテナンス性の向上や高耐久な建材の使用、断熱化）
- ② 外壁・外部建具改修（コンクリートの中性化、断熱化、周辺環境に合わせた塗装）
- ③ 内装改修（木質化、防火性能の現代化、明るい色調、防音壁・天井）
- ④ 電気設備改修（省エネルギー機器に更新、発電施設・蓄電施設）
- ⑤ 機械設備改修（省エネルギー機器に更新、水道・ガスの外配管）
- ⑥ 外構改修（外周フェンスや運動場フェンスの更新、雨水排水対策）
- ⑦ 配膳室改修（メンテナンス性の向上、衛生の向上）
- ⑧ 防犯対策（防犯カメラの設置・緊急通信設備の整備）
- ⑨ バリアフリー改修（多目的トイレ、段差解消、EV 設置）
- ⑩ 防災機能の強化（災害時に使用できる給水設備、発電施設・蓄電施設、備蓄庫整備）
- ⑪ 非構造材の耐震化（什器類の固定）

#### 教育環境の質的向上（快適性・環境への適応・学習効率の向上）

- ① 空調設備の整備
- ② トイレ改修（洋式化・乾式床・節水型便器、保健室にシャワー設置）
- ③ 内装改修（教室の木質化、現代に合わせたロッカー類の更新）
- ④ エコ改修（太陽光発電・リサイクル建材・複層ガラス・LED 照明・人感センサー）
- ⑤ 教育環境の向上改修（電子黒板・上下スライド式黒板・音楽教室の防音）
- ⑥ その他（現代に合わせた通信設備の更新）

#### 省エネルギー、エコ改修（断熱化や設備の高効率化・環境教育に活用）

- ① 電気設備改修（省エネルギー機器に更新、発電施設・蓄電施設）〈再掲〉
- ② 機械設備改修（省エネルギー機器に更新、水道・ガスの外配管）〈再掲〉
- ③ エコ改修（太陽光発電・複層ガラス・LED 照明・人感センサーなど）〈再掲〉

部首	部位	整備水準	着眼点		
			安全性 確保	教育環 境向上	エコ 対応
建 築 物	屋上・屋根	高耐久な建材の使用	○	○	○
		断熱化		○	○
	外壁	コンクリートの中性化対策	○		
		断熱化		○	○
		周辺環境に合わせた塗装		○	
	内装改修	防火性能の現代化	○		
		木質化	○	○	○
		防音壁・天井		○	
		明るい色調		○	○
		断熱化		○	○
	個別施設	配膳室改修		○	
	建具	複層ガラス		○	○
		リサイクル建材			○
	その他	段差解消	○	○	
EV 設置			○		
外 構	グラウンド	外周フェンス	○		
		雨水排水対策	○		
		防犯灯・防犯カメラ	○		
電 気 設 備	動力設備	発電設備・蓄電設備	○		
	照明	LED 照明・人感センサー		○	○
	通信施設	緊急通信設備	○		
現代に合わせた校内放送・電話設備		○	○		
機 械 設 備	電気機器	エアコン（新設）	○	○	
		太陽光発電・風力発電など		○	○
	教育機器	電子黒板		○	
		上下移動黒板		○	
	衛生器具	洋式トイレ（節水型）	○	○	○
		床の乾式化	○	○	
		保健室のシャワー		○	
	配管類	外配管	○		
その他	現代に合わせた水回りや什器類		○		

表中「○」は対象となる部位を更新することによって期待される効果です。

※衛生面の向上及び教職員の負担軽減は教育環境向上とした。

## 5-2 維持管理の項目・手法等の策定

学校施設は、児童生徒等の学習・生活の場であるとともに、非常災害時には地域の避難所としての役割を担います。そのため、日常はもとより災害時においても十分な安全性・機能性を有することが求められています。

日常的・定期的に維持管理を行うことにより、突発的な事故を防止するとともに、速やかに施設に応じた維持、改修計画を見直すことができます。日常点検とともに、法令などに基づいた定期的な点検を行い、必要な修理・修繕等を速やかに実施し、常時健全な状態を維持します。

教職員の方々による日常的な点検については、文部科学省が作成した「安全で快適な学校施設を維持するために」を参考に行うものとします。

### 設置者と学校の点検

担当	項目		実施時期・目的・内容等
福崎町 (教育委員会)	維持	改修・修繕	予防・保全の観点から実施する。
	点検	定期点検	年1回、施設の劣化状況などを把握するために実施する。
		法定点検	定められた期間ごとに、専門業者により実施する。
		臨時点検	故障情報、気象情報などにより、学校に注意を促し状況を把握する。
	情報管理		点検、改修・修繕などの履歴を管理し、現状把握をするとともに、計画に反映する。
学校	維持	清掃	快適な環境を維持するために実施する。
	点検	日常点検	早期に異常を発見するために実施する。
		定期点検	年1回または学期ごとの点検により、建物および施設の異常の有無、兆候を発見する。
		臨時点検	災害発生後などに被害情報の把握と危険性の判断を行う。

### 専門業者による法定点検

点検内容	点検時期	根拠法令
建物の劣化・破損の状況	3年	建築基準法第12条第1項
消防設備等点検	6ヶ月	消防法第17条の3の3
電気設備点検	1ヶ月	電気事業法第42条
昇降機定期検査	1年	建築基準法第12条第3項
簡易専用水道検査	1年	水道法第34条の2第2項

学校による日常的な点検事例

点検設備	症状	危険性	留意点
1. 天井	①天井ボードのはずれ ②天井吊りのテレビモニターのグラつき ③天井のシミ	・天井ボード、テレビモニター落下の危険性	・天井のシミは漏水などが考えられるので、専門家による調査が必要
2. 内壁	①壁モルタルの亀裂 ②ボードの割れ ③トイレなどのタイルの割れ、剥がれ	・モルタル、ボード等が欠け落ちてくる可能性	・木製扉のささくれ、クギ等の突起物はけがの原因となるため、処置が必要
3. 床	①床シートの剥がれ、摩耗 ②床タイルの剥がれ、割れ ③階段、滑り止め金具の外れ	・転倒など、けがの原因	・放置すると損傷が広がる可能性があるため、応急処置が必要 ・床は濡れたままにすると剥がれ、割れ等の原因となるため、その都度ふき取ることが大切
4. 外壁	①外壁、庇の亀裂 ②外壁、モルタルの落下 ③鉄筋の露出 ④塗膜の劣化・剥離	・モルタルが落下する危険性。放置すると損傷の範囲が広がる可能性あり	・児童生徒が近づかないようバリケードを設置するなどの措置を講じる ・専門家による調査が必要
5. 屋外遊具施設等	①野外、鉄製の遊具設備のサビ ②国旗掲揚ポールの固定部分、根本が腐食 ③鉄棒などのグラつき	・鉄の腐食は進行が早く、突然倒壊する可能性	・遊具施設は直接雨風日さらされ、乱暴に扱われることがあるため、グラつかないか、ボルトが緩んでいないか等を点検する必要あり
6. 屋外階段	①階段手すりのグラつき ②鉄骨階段にサビ発生	・痛みが著しい場合、緊急時に避難する際、転倒するなど可能性	・手すりのサビ、グラつきの点検が必要 ・サビが進行しないうちに、塗装の塗り替えを行うことが必要

※「安全で快適な学校施設を維持するために／文部科学省」を基に福崎町の実態に合わせて追記

## 第6章 長寿命化改良等の実施計画

### 6-1 改修等の優先順位付けと実施計画

#### 1 実施計画の基本的な考え方

本計画を実現するために「学校施設整備の基本的な方針等」に基づき、「実施計画」を策定しますが、将来の児童・生徒数や財政・社会情勢の変化に合わせて、実施計画期間を5年ごとに区切り、見直しを行いながら改修等の対策を進めていくこととします。

本町で策定する実施計画の基本的な考え方は次のとおりです。

#### 長寿命化改良・大規模改造および部位修繕に関する考え方

- (1) 施設整備全体に係る費用を縮減し、限りある予算で本計画を実現する必要があるため、長寿命化改良および大規模改造は、校舎、体育館で実施し、プール棟等は部位修繕にて対応します。
- (2) 40年間を経過した施設は、できるだけ速やかに長寿命化改良を実施します。
- (3) 長寿命化改良を行った後は、国庫補助条件として30年間使用し続ける必要があるため、既に築50年以上経過した学校施設は、長寿命化改良の実施の是非を検討します。
- (4) 予防保全の観点から、大規模改造は、新築または長寿命化改良後、20年経過後速やかに実施します。
- (5) 外壁は外部建具などの落下の危険性がある部位、劣化状況調査でC評価（広範囲に劣化）がある部位などは、部位修繕および構造強度の低下を抑制する改修を検討します。
- (6) 学校施設の改修工事の実施は、児童・生徒の安全確保、授業等の学校運営への影響、学校施設の規模や周辺環境を考慮した上で決定します。

#### 長寿命化改良に伴う施設の更新等に関する考え方

- (7) エアコンの設置されていない特別教室等への設置を検討します。
- (8) エアコン設置効果を生かすために、外壁の外断熱改修や複層ガラス設置・通風による室内温熱環境改善等について検討します。
- (9) トイレの洋式化については、長寿命化改良と同時に整備を行います。
- (10) 全ての学校においてバリアフリー化を進めていきます。

#### 国庫補助事業に関する考え方

- (11) 改修などにあたっては、財政支出面での負担を考慮し、国庫補助事業を最大限に活用し財政支出の縮減を図ります。

#### 2 改修等の優先順位付けの基本的な考え方

改修等の優先順位付けは、次の点を考慮し決定します。

- ・優先順位の対象施設は、校舎と体育館とし、対象事業は「長寿命化改良事業」および「大規模改造事業」とします。
- ・「劣化状況」「建築年次」「過去の改修履歴」「施設の運営状況」「避難所の施設基準」等に配慮しながら、本計画における劣化状況調査結果を基本に棟毎に時期を設定します。
- ・当初の5年間は、計画年次に基づく事業進捗を基本とし、それ以降は暫定順位による事業想定やシミュレーションを行うものとします。
- ・概ね5年後に、その時の「劣化状況」等により優先順位の計画を見直すものとします。

### 3 実施計画（40年）

改修順位付けの基本的な考え方を踏まえた実施計画（2019年度～2058年度）は次のとおりです。

長寿命化改修および大規模修繕計画(40年計画)

計画年度		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
第1期	施設	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	
小学校	福崎小	北校舎 1978築	長寿命化改修 実施設計 34	長寿命化改修 (築42年) 176	長寿命化改修 (築43年) 176							
		南校舎 1980築							長寿命化改修 実施設計 56	長寿命化改修 (築47年) 287	長寿命化改修 (築48年) 287	
		体育館 1987築									長寿命化改修 実施設計 14	
	高岡小	北校舎 1974築			長寿命化改修 実施設計 8	長寿命化改修 (築48年) 87						
		南校舎 1994築										
		体育館 1990築										
	田原小	校舎 1979築				長寿命化改修 実施設計 79	長寿命化改修 (築44年) 404	長寿命化改修 (築45年) 404				
		体育館 2015築										
	八千種小	校舎 1991築										
		体育館 2006築								大規模修繕 実施設計 5	大規模修繕 (築22年) 54	
	中学校	福崎西中	校舎 1984築									
			体育館 1985築									
福崎東中		校舎 1980築					長寿命化改修 実施設計 81	長寿命化改修 (築45年) 415	長寿命化改修 (築46年) 415			
		体育館 1980築										
事業費計		34	176	184	166	404	485	415	471	292	355	
計画年度		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
第2期	施設	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	2036年	2037年	2038年	
小学校	福崎小	北校舎 1978築										
		南校舎 1980築										
		体育館 1987築	長寿命化改修 (築42年) 146									
	高岡小	北校舎 1974築										
		南校舎 1994築							長寿命化改修 実施設計 33	長寿命化改修 (築43年) 168	長寿命化改修 (築44年) 168	
		体育館 1990築						長寿命化改修 実施設計 10	長寿命化改修 (築46年) 106			
	田原小	校舎 1979築										
		体育館 2015築								大規模修繕 実施設計 5	大規模修繕 (築22年) 54	
	八千種小	校舎 1991築					長寿命化改修 実施設計 62	長寿命化改修 (築43年) 316	長寿命化改修 (築44年) 316			
		体育館 2006築										
	中学校	福崎西中	校舎 1984築		長寿命化改修 実施設計 83	長寿命化改修 (築47年) 425	長寿命化改修 (築48年) 425					
			体育館 1985築				長寿命化改修 実施設計 15	長寿命化改修 (築48年) 150				
福崎東中		校舎 1980築										
		体育館 1980築	長寿命化改修 実施設計 14	長寿命化改修 (築50年) 143								
事業費計		160	226	425	440	212	316	326	144	222	168	

凡例  

校舎 1984築	長寿命化改修 (築45年) 425	←実施する改修の種類
		←実施時の築年数
		←事業費（単位：百万円）

2048年  
本計画  
の期間  
(30年)

計画年度		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
第3期	施設	2039年	2040年	2041年	2042年	2043年	2044年	2045年	2046年	2047年	2048年
小学校	福崎小	北校舎 1978築			大規模修繕 実施設計 14	大規模修繕 146					
		南校舎 1980築									大規模修繕 実施設計 23
		体育館 1987築									
	高岡小	北校舎 1974築				大規模修繕 実施設計 4	大規模修繕 36				
		南校舎 1994築									
		体育館 1990築									
	田原小	校舎 1979築						大規模修繕 実施設計 33	大規模修繕 337		
		体育館 2015築									
	八千種小	校舎 1991築									
		体育館 2006築									長寿命化改修 実施設計 14
	中学校	福崎西中	校舎 1984築								
			体育館 1985築								
福崎東中		校舎 1980築							大規模修繕 実施設計 34	大規模修繕 346	
		体育館 1980築									
事業費計		0	0	14	150	36	33	337	34	346	37

※本計画期間は30年と定めていますが、実施計画に当たっては従来型の維持・更新コストとの比較を行う必要があるため、従来型の改築周期である「40年」での事業費の計上を行っています。

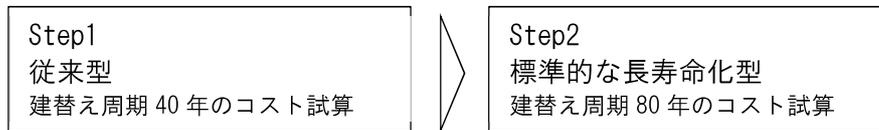
計画年度		31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	棟別整備費用	
第4期	施設	2049年	2050年	2051年	2052年	2053年	2054年	2055年	2056年	2057年	2058年		
小学校	福崎小	北校舎 1978築										546	
		南校舎 1980築	大規模修繕 239									892	
		体育館 1987築		大規模修繕 実施設計 5	大規模修繕 53							218	
	高岡小	北校舎 1974築											135
		南校舎 1994築										大規模修繕 実施設計 14	383
		体育館 1990築							大規模修繕 実施設計 4	大規模修繕 39			159
	田原小	校舎 1979築											1,257
		体育館 2015築									長寿命化改修 実施設計 14	長寿命化改修 (築43年) 147	220
	八千種小	校舎 1991築							大規模修繕 実施設計 26	大規模修繕 263			983
		体育館 2006築	長寿命化改修 (築43年) 147										220
	中学校	福崎西中	校舎 1984築			大規模修繕 実施設計 35	大規模修繕 354						1,322
			体育館 1985築				大規模修繕 実施設計 5	大規模修繕 55					225
福崎東中		校舎 1980築											1,291
		体育館 1980築		大規模修繕 実施設計 5	大規模修繕 52								214
事業費計		386	10	105	35	359	55	26	267	53	161	8,065	

この費用の他に、校舎、体育館の部位修繕に「229百万円」や技術室棟、クラブハウス、プール棟などの部位修繕、大規模修繕、改築などに「743百万円」が必要

注) 長寿命化改修は国庫補助事業としての「長寿命化改良事業」に適合させるため築年数40年以上で実施する。  
 事業費総額は、公共施設等更新費用試算ソフトに従い、校舎の改築を33万円/㎡を基準とし、長寿命化改修はその60% (19.8万円/㎡)、大規模修繕をその25% (8.25万円/㎡) とした。同様に、体育館は改築 (20万円/㎡)、長寿命化改修 (12万円/㎡)、大規模修繕は22% (4.4万円/㎡) としている。なお、空調設備等の更新・維持費用は、長寿命化改修等に含まれる。  
 実施設計費は工事費の10%とし、修繕等実施の前年に計上し、監理費は工事費の2%とし、修繕等と同時に計上している。

## 6-2 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果

従来型の建替え中心での更新では、多額の出費が想定されます。長寿命化を行うことで今後想定されるコストの試算を次のステップで行い、従来型のコストと比較することで長寿命化の実効性を検証します。



過去の施設関連経費 (円)

	H25	H26	H27	H28	H29
施設整備費	55,646,988	35,000,339	96,444,805	433,768,167	38,916,897

コスト設定表 (円/㎡)

	校舎		体育館		寄宿舍		その他	
改築		330,000		200,000		280,000		280,000
長寿命化改修	60.0%	198,000	60.0%	120,000	60.0%	168,000	60.0%	168,000
大規模改造	25.0%	82,500	25.0%	44,000	25.0%	70,000	25.0%	70,000
部位修繕	14.2%	46,860	3.0%	6,000	2.3%	6,561	2.3%	6,561

### 1. 従来型の維持・更新コスト

次に示す算定条件に基づき、40年周期で建替えを行う従来型の維持・更新コストを算定します。

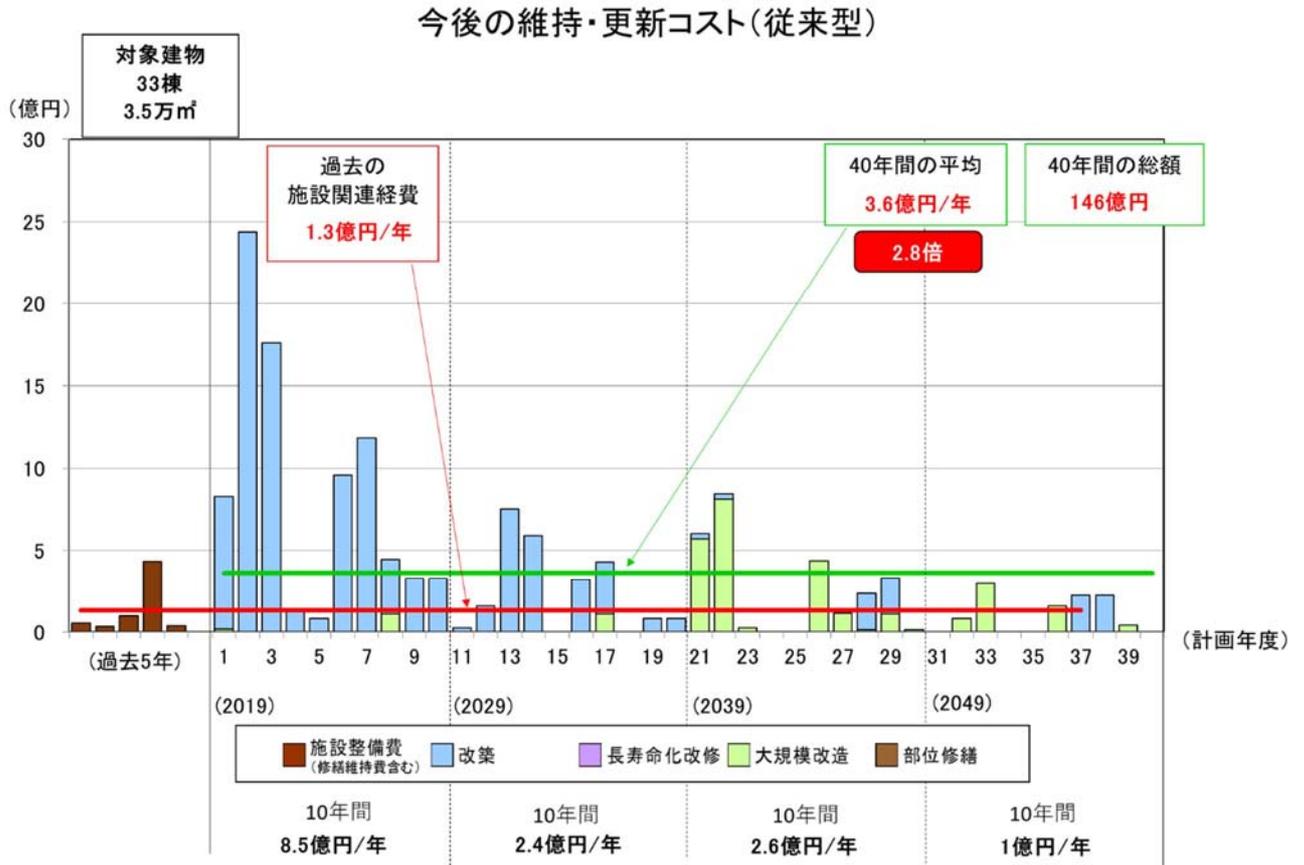
#### (1) コスト算定条件 (従来型)

基準年度	2018	年	試算期間：基準年の翌年度から40年間
<b>改築</b>			
更新周期	40	年	工事期間
			2
			年
			実施年数より古い
			建物の改修を
			10
			年以内に実施
<b>大規模改造</b>			
実施年数	20	年周期	工事期間
			1
			年

(2) 従来型の維持・更新コスト

約 40 年で建替えを行う従来型の改修を続けた場合、今後 40 年間の維持・更新コストは 146 億円（3.6 億円/年）かかり、過去 5 年間の施設関連経費（1.3 億円/年）の 2.8 倍となります。

また、平成 30 年代に建替えが集中し、今後 5 年間の施設関連経費は平均で 10.5 億円/年かかるため、従来型の整備を継続することは困難であり、対応策を検討する必要があります。



## 2.標準的な長寿命化型の維持・更新コスト

標準的な更新・改修周期を基に、劣化状況調査による〔C評価（広範囲に劣化）〕箇所の優先的な改修やその他各学校施設の劣化状況を踏まえて、今後の維持・更新コストを算定します。

### (1) コスト算定条件（長寿命化型）

基準年度 <input type="text" value="2018"/> 年 試算期間：基準年の翌年度から40年間	
<b>改築</b> 更新周期 <input type="text" value="80"/> 年 <長寿命>	工事期間 <input type="text" value="1~2"/> 年 実施年数より古い建物の改修を <input type="text" value="10"/> 年以内に実施
<b>長寿命化改修</b> 改修周期 <input type="text" value="40"/> 年周期	工事期間 <input type="text" value="2"/> 年 実施年数より古い建物の改修を <input type="text" value="10"/> 年以内に実施
<b>大規模改造</b> 改修周期 <input type="text" value="20"/> 年周期 （ただし、改築・長寿命化改修の前後10年間に重なる場合は実施しない）	工事期間 <input type="text" value="1"/> 年
<b>部位修繕</b> D評価： 今後 <input type="text" value="5"/> 年以内に部位修繕を実施 C評価： 今後 <input type="text" value="10"/> 年以内に部位修繕を実施 （ただし、改築・長寿命化改修・大規模改造を今後10年以内に実施する場合を除く） A評価： 今後 <input type="text" value="10"/> 年以内の長寿命化改修から部位修繕相当額を差し引く	

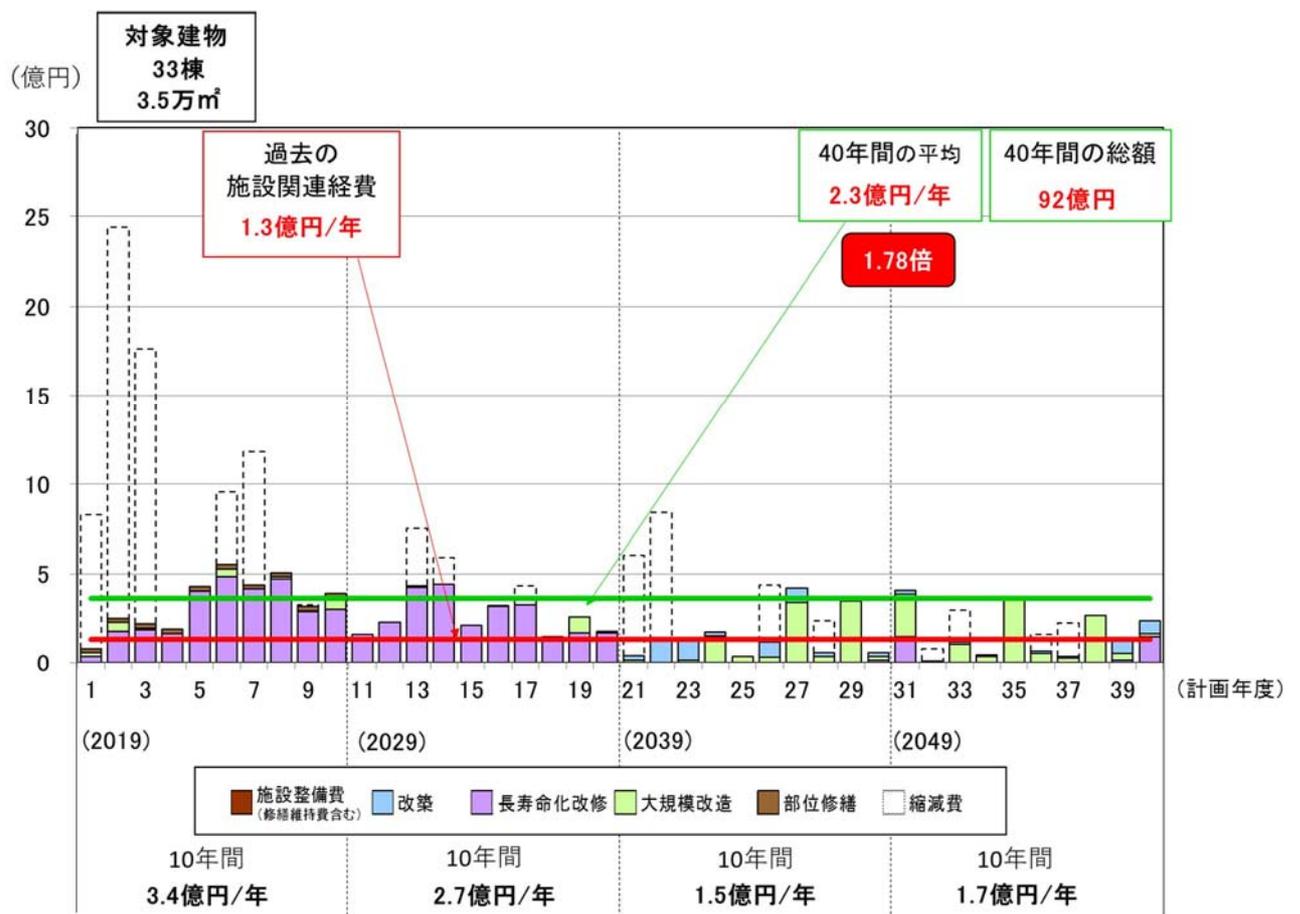
(2) 平準化した長寿命化型の維持・更新コスト

建替え中心の従来型から、長寿命化型にシフトしていくためには、大規模改造（機能回復）および長寿命化改良（機能向上）の計画的な実施と、適切な維持管理が必要となります。

長寿命化改良を実施し耐用年数を約 80 年にした場合、今後 40 年間の維持・更新コストは 92 億円（2.3 億円/年）となり、従来型の場合の 146 億円（3.6 億円/年）と比べて、約 35%の縮減が可能となります。

ただし、平準化した長寿命化を行った場合でも、過去 5 年間の施設関連経費の 1.8 倍のコストがかかります。また、計画年度 5 年目から 10 年目（2023～2028 年）にかけて長寿命化改良が集中し、ややコストが高くなっています。

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)



### 3.コスト比較

いずれの試算も過去5年間の施設関連経費（1.3億円/年）を上回る結果となりますが、Step2「平準化した長寿命化型」では従来型よりもコストを圧縮することができます。

- ・「計画的な予防保全」に維持管理手法をシフトすることで、安全に配慮した施設の長期利用が可能。
- ・学校施設の実態を踏まえた「改修等の基本方針」により、計画的な機能向上のための施設整備が可能。
- ・今後の施設関連経費が縮減でき、平準化も可能。（従来型と比べて約35%の縮減）

		条件	40年間の 総額	40年間の 平均	過去の施設 関連経費	コスト比較
Step 1	従来型	更新周期：40年 改修周期：20年	146億円	3.6億円/年	1.3億円/年	[過去の施設関連経費] 2.8倍
Step 2	平準化した 長寿命化型	更新周期：80年 改修周期：20年（大規模改造） ：40年（長寿命化改良）	92億円	2.3億円/年		[過去の施設関連経費] 1.8倍
						[Step1との比較] 約35%の縮減

### 4.長寿命化の効果

これまでの検証の結果、学校施設の長寿命化を推進することで、次に示すような効果が期待できます。

#### ①資産の有効活用

- ・公共の資産を長く有効に使い続けることができます。

#### ②財政面等への貢献

- ・建替えに比べ工事費が縮減し、ライフサイクルコストの縮減が期待できます。

#### ③学習活動制限の軽減

- ・建替えに比べ工期短縮ができるため、学習活動への制限が軽減されます。

#### ④自然環境への貢献

- ・建替えに比べ建設廃棄物の排出量や二酸化炭素の発生量を大幅に減少でき、自然環境への負荷量低減に貢献できます。

#### ⑤効率化に向けた時間の確保

- ・建替え時期を先に延ばせることで、その時点での児童・生徒数や学習指導方針、財政運営状況、地域の実情に応じた施設の在り方を検討する時間を確保することができます。

## 第7章 長寿命化計画の継続的運用方針

### 7-1 情報基盤の整備と活用

本計画を効率的かつ効果的な施設整備を進めていくにあたり、学校施設の状況や改修履歴などをデータとして蓄積し、確実に更新することが必要です。

次の情報を適切に管理し、施設の実態を把握することで、今後の改修内容や時期などを総合的に判断します。

- 公立学校施設台帳……………学校施設の基本情報
- 定期・法定点検報告……………点検時の指摘事項等
- 本計画における劣化状況調査結果……………施設の劣化状況および相対的な老朽度の評価

各データは、施設状況に変更が生じた際や改修、報告などが行われた際に適宜更新するほか、毎年度、更新の有無を含め内容を確認します。

### 7-2 推進体制等の整備

学校施設長寿命化計画を継続的に運用していくために、総合管理計画の基準・方針等を踏まえながら、教育委員会を中心にまちづくり課の技術職員、企画財政課などと連携し、全庁的な体制で本計画をもとにした学校施設マネジメントを行っていくものとします。また、日常管理・点検の充実に向けては、施設管理・点検マニュアルなどの整備を検討するとともに、マニュアルの実施に向けた研修会などにより、不具合箇所の早期発見・早期改修によりランニングコストの低減を図ります。

### 7-3 フォローアップ

本計画に基づき、効率的かつ効果的な施設整備を進めていくにあたり、次のPDCAサイクルを確立することが重要です。

- 〈Plan〉 施設点検・評価による現状を的確に把握した上で、それを踏まえた計画を策定  
(学校施設の長寿命化計画の策定)
- 〈Do〉 計画に基づき、適切な改修や日常的な維持管理等の実施
- 〈Check〉 整備による効果検証と、整備手法など改善すべき点についての課題整理
- 〈Action〉 次期計画に反映

本計画は、学校施設の改修等の優先順位を設定するものであり、事業を実施するには予算措置が必要です。従って、町全体の財政計画と整合させていくとともに、事業の進捗状況や点検から得られる学校施設等に関する状況・評価などの結果に加え、社会の状況や他の公共施設の状況を踏まえた上で、必要に応じて見直しを図るものとします。



## 参 考 资 料



## 計画策定に係る経緯と体制

### 1 計画策定に係る経緯

2013(平成25)年3月	「学校施設の老朽化対策について」の公表（学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議）
2013(平成25)年11月	「インフラ長寿命化基本計画」策定（国土交通省）
2014(平成26)年1月	「学校施設の長寿命化改修の手引」の公表（文部科学省）
2014(平成26)年4月	「公共施設等総合管理計画」の策定要請（総務省） 「公共施設等総合管理計画」の策定指針（総務省）
2015(平成27)年3月	「インフラ長寿命化計画（行動計画）」の策定について（通知）（文部科学省）
2015(平成27)年4月	「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」の公表（文部科学省）
2017(平成29)年3月	「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」の公表（文部科学省）
2017(平成29)年3月	「福崎町公共施設等総合管理計画」策定（福崎町）
2017(平成29)年5月	「個別施設計画の策定のためのマニュアル・ガイドライン等」の公表（総務省）
2017(平成29)年11月	福崎町立学校施設の老朽化状況実態調査結果報告
2018年 (平成30年)10月22日	第1回福崎町学校施設等長寿命化計画策定検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検討委員会委嘱書交付</li> <li>・ 概要説明</li> <li>・ 現況調査結果報告</li> <li>・ 計画書概要説明</li> <li>・ 意見交換</li> </ul>
2018年 (平成30年)12月16日	第2回福崎町学校施設等長寿命化計画策定検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回検討委員会の振り返り</li> <li>・ 計画書（案）説明</li> <li>・ 意見交換</li> <li>・ 今後のスケジュール説明</li> </ul>
2019年 (平成31年)1月24日 ～ 2019年 (平成31年)2月14日	福崎町学校施設等長寿命化計画（案）に対する意見募集（パブリックコメント）
2019年 (平成31年)2月27日	第3回福崎町学校施設等長寿命化計画策定検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2回検討委員会の振り返り</li> <li>・ 意見募集（パブリックコメント）結果及び回答（案）説明</li> <li>・ 計画書（案）決定</li> </ul>
2019(平成31)年3月	福崎町学校施設等長寿命化計画策定

## 2 計画策定に係る体制

本計画は、官民有識者からなる「福崎町学校施設等長寿命化計画策定検討委員会」を設置して計画づくりを行いました。

### 福崎町学校施設等長寿命化計画策定検討委員会 委員名簿

No.	役職	氏名	所属等	備考
1	委員長	尾崎 吉晴	副町長	
2	副委員長	高寄 十郎	教育長	
3	委員	吉栖 雅人	技監	
4	委員	吉田 利彦	企画財政課長	
5	委員	福永 聡	まちづくり課長	
6	委員	城谷 英之	町議会議員	
7	委員	山口 純	町議会議員	
8	委員	石川 治	教育委員会委員	
9	委員	木村 保則	小学校長会代表	
10	委員	鍛示 聡	中学校長会代表	
11	委員	小椋 忠志	小学校PTA代表	
12	委員	牛尾 之則	中学校PTA代表	

#### 【事務局等】

(事務局)	福崎町教育委員会	学校教育課	課長	岩木 秀人
	福崎町教育委員会	学校教育課	係長	藪内 公彦
	福崎町教育委員会	学校教育課	主査	宮本 江利子
(建築担当)	福崎町	まちづくり課	主査	原井川 琢彦
	福崎町	まちづくり課	建築技術専門員	後藤 守芳

## 福崎町学校施設等長寿命化計画策定検討委員会設置要綱

平成30年7月5日告示第66号

(目的)

第1条 この要綱は、福崎町学校施設等長寿命化計画策定検討委員会の設置、組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 今後、老朽化や整備需要の急増が予想される学校施設等について、建替、修繕、及び施設の更新の優先順位付け、並びにコストの縮減及び平準化を目的とした長寿命化計画を策定するため、福崎町学校施設等長寿命化計画策定検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第3条 委員会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事項について調査及び検討を行うものとする。

- (1) 学校施設等の長寿命化計画の策定に関すること。
- (2) その他、学校施設等の長寿命化に関すること。

(組織)

第4条 委員会の委員は、次に掲げる者で構成することとし、町長が委嘱する。

- (1) 副町長
- (2) 教育長
- (3) 技監
- (4) 企画財政課長
- (5) まちづくり課長
- (6) 町議会議員 2名
- (7) 教育委員会委員 1名
- (8) 小学校長会代表 1名
- (9) 中学校長会代表 1名
- (10) 小学校PTA代表 1名
- (11) 中学校PTA代表 1名

2 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は副町長を、副委員長は教育長をもって充てる。

3 委員長は、委員会を統括する。

4 副委員長は、委員長に事故があるとき、または委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(任期)

第5条 委員の任期は、計画策定が完了するまでの期間とする。

(会議)

第6条 委員会は、必要に応じて委員長が招集し、委員長はその議長となる。

2 審査会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員長は、必要があると認めるときは、委員会の会議に第4条第1項に規定する者以外の者を出席させることができる。

(事務局)

第7条 委員会の事務局は、教育委員会学校教育課に置く。

(雑則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項については、委員会の決定による。

附 則

この要綱は、公布の日から施行する。

### 3 参考資料

平成27年4月文部科学省ガイドラインより

○平成25年11月に策定された「インフラ長寿命化基本計画」においては、各インフラ管理者が個別施設毎の具体的な対応方針を定める計画として個別施設毎の長寿命化計画を策定することとされた。

○学校施設の長寿命化計画を策定する際の基本的な考え方や留意事項、計画に盛り込むべき事項等を示すとともに、押さえておくべきポイントや具体的な考え方を解説した手引を作成。

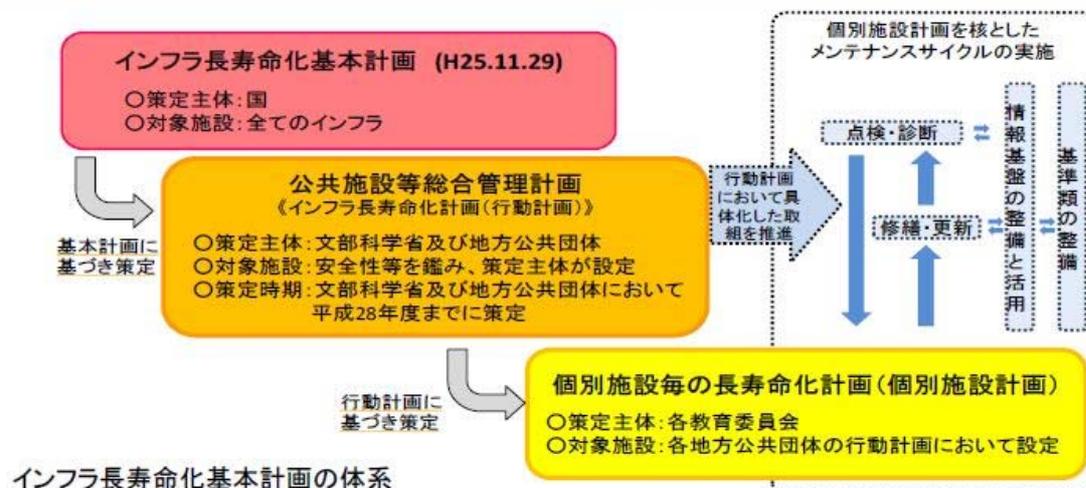
※ 学校施設の長寿命化計画策定に係る手引作成検討会(主査:上野淳 首都大学東京理事・名誉教授(当時))において検討

## 1. 学校施設の現状

- ・ 築25年以上で改修を要する施設が約7割 ⇒安全上、機能上の問題点
- ・ 今後見込まれる膨大な老朽施設の更新需要
- ・ 国・地方ともに厳しい財政状況
- ・ 児童生徒数の減少

## 2. 長寿命化計画策定の目的

- ・ よりよい教育環境の確保
- ・ 効率的・効果的な老朽施設の再生によるトータルコストの縮減・予算の平準化
- ・ 今後の方針の共有による学校関係者・地域住民の理解の促進



インフラ長寿命化基本計画の体系

## 学校施設の長寿命化計画の構成について

### 目標設定

#### (1) 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

- ・学校施設の長寿命化計画の策定に当たっての背景や目的を記載する。
- ・施設の現状と今後の施設整備の基本的な方針、日常的な維持管理の方針等を考慮の上、計画期間を設定する。

#### (2) 学校施設の目指すべき姿

- ・国や地方公共団体の教育振興基本計画や学習指導要領のほか、各地方公共団体の教育ビジョン等に掲げられた施策を基本として、それらを実現するために学校施設としてどのような機能・性能が必要となるかを検討し、目指すべき姿を示す。

### 実態把握

#### (3) 学校施設の実態

##### ① 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

- ・地方公共団体の人口や財政の状況、他の公共施設の状況等の学校施設を取り巻く状況のほか、学校施設の保有量や将来の更新コスト、保有教室の活用状況、学校施設毎のコスト状況等について現状と課題を整理する。

##### ② 学校施設の老朽化状況の実態

- ・改修方法等の検討に必要な劣化状況等の実態として、構造躯体の健全性の評価を行うとともに、構造躯体以外の劣化状況等の評価項目を地域の実情に応じて決定した上で評価を行い、現状と課題を整理する。

### 方針の設定

#### (4) 学校施設整備の基本的な方針等

##### ① 学校施設の規模・配置計画等の方針

- ・学校施設の実態や目指すべき姿等を踏まえ、今後の学校施設の規模や配置計画に関する方針について記載する。
- ・計画策定時点で個々の施設に係る方針が立てられない場合、今後の当該方針の策定に向けた検討時期を記載することが重要である。

##### ② 改修等の基本的な方針

- ・学校施設の実態を踏まえつつ、目指すべき姿を実現していくための改修等の基本的な方針として、長寿命化や予防保全の方針、目標使用年数、改修周期等を示す。

#### (5) 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

##### ① 改修等の整備水準

- ・把握した現状の整備水準等を踏まえ、城内の学校施設に関する統一的な方針として、今後の改修等による整備水準を設定する。

##### ② 維持管理の項目・手法等

- ・各学校施設の維持管理を効率的・効果的に実施するため、点検・評価の項目を整理する。また、点検・評価の項目毎に調査や修繕の方法、周期等を設定する。

### 長寿命化計画の策定・運用

#### (6) 長寿命化の実施計画

##### ① 改修等の優先順位付けと実施計画

- ・今後の学校施設の改修等に関する優先順位付けの考え方を示した上で、今後の改修等の内容や時期、費用等を整理し、年次計画を策定する。
- ・計画策定時点において、個々の施設に係る規模・配置計画等の方針が立っていない場合には、今後の検討を踏まえ、改訂のタイミングで計画に反映する。

##### ② 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果

- ・計画に従って長寿命化を行った時のコストの見通しを明らかにする。
- ・改築中心の場合とのコストの比較・評価を行い、長寿命化の効果を明らかにする。

#### (7) 長寿命化計画の継続的運用

##### ① 情報基盤の整備と活用

- ・把握した現状データの蓄積方法を記載する。

##### ② 推進体制等の整備

- ・学校施設の長寿命化計画を継続的に運用していくために必要な組織体制等の充実方策について記載する。

##### ③ フォローアップ

- ・学校施設の長寿命化計画の進捗状況等について、適切な期間内にフォローアップを実施し、必要に応じて計画を更新する旨を記載する。

**福崎町学校施設等長寿命化計画**

2019年（平成31年）3月策定

〒679-2280

兵庫県神崎郡福崎町南田原 3116 番地の1  
福崎町教育委員会 学校教育課

TEL 0790-22-0560（内線 251）

FAX 0790-22-0630

E-mail [kyouiku@town.fukusaki.lg.jp](mailto:kyouiku@town.fukusaki.lg.jp)